

平成18年度（第50回）
岩手県教育研究発表会発表資料

特別支援教育

特殊学級における教科指導の在り方に関する研究

- 教材分析に視点を当てた算数・数学科の
指導の在り方と実生活との関連性から -

研究協力校
花巻市公立中学校

平成19年1月9日
岩手県立総合教育センター
特別支援教育室
佐伯 祝

<目 次>

研究の目的	1
研究の仮説	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
1 研究の目標	1
2 研究の内容与方法	1
3 研究協力校	2
昨年度の研究の概要	2
1 特殊学級における教科別の指導の在り方に関する基本的な考え方	2
(1) 特殊学級における算数・数学科の指導の在り方の現状	2
(2) 特殊学級における算数・数学科の指導の在り方に関する研究の意義	3
(3) 特殊学級における算数・数学科の指導の在り方に関する基本的な考え方	4
2 特殊学級における教科別の指導の在り方に関する実態調査と調査結果の分析・考察	4
(1) 調査目的	4
(2) 調査のまとめ	4
3 特殊学級における教科別の指導の在り方に関する基本構想の立案	4
(1) 特殊学級における算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性	4
(2) 教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を 図る手だて	4
(3) 特殊学級における教科別の指導の在り方に関する基本構想図	6
本年度の研究の分析と考察	7
1 算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての構築	7
(1) 実生活に視点おいた特殊学級の算数・数学科の指導領域と題材（学習内容）の選定	7
(2) 特殊学級における算数・数学科の実態把握のための手だて	7
(3) 特殊学級における算数・数学科の題材間の系統性を明らかにするための手だて	9
(4) 特殊学級における算数・数学科の学習を実生活に活用するための手だて	9
(5) 算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての試案	11
2 算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だてに基づく指導実践	12
(1) 指導実践計画	12
(2) 手だての試案に基づく指導実践	12
(3) 授業の様子	13
3 指導実践の分析と考察	16
(1) 実生活に関連付ける特殊学級の算数・数学科の指導領域と題材（学習内容）の 選定について	16
(2) 特殊学級における算数・数学科の実態把握のための手だてについて	17
(3) 特殊学級における算数・数学科の題材間の系統性を明らかにするための 手だてについて	17
(4) 特殊学級における算数・数学科の学習を実生活に活用するための手だてについて	17
4 特殊学級における教科別の指導の在り方に関するまとめ	18
研究のまとめと今後の課題	18
1 研究のまとめ	18
2 今後の課題	19

おわりに

【参考文献】

研究の目的

特殊学級においては、児童生徒の実態に応じて特別な教育課程を編成することが認められている。通常学級における算数・数学科の授業では、学習指導要領に定められた該当学年の目標や内容を指導するのに対し、特殊学級においては一人一人の実態に応じた内容を実生活に関連づけて指導することが求められている。

しかし、特殊学級担任の多くは、一人一人の実態に応じた学習課題の設定や授業の組み立てに苦慮している状況が見られる。これは、学習課題を設定する際の教材分析の視点が不明瞭であることや、算数・数学科の学習を実生活に関連付ける手だてが不十分であることが主な要因であると考えられる。

このような状況を改善していくためには、教材分析を行うための視点を明らかにし、その視点を基に算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だてを構築する必要がある。この手だての活用を図ることにより、児童生徒の実態に応じた効果的な教科別の指導が実現できると考える。

そこで、本研究では、小・中学校の特殊学級における算数・数学科の指導の現状と課題を踏まえ、実生活に関連付ける学習課題の設定や授業の組み立てを行うための教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導の在り方を明らかにすることで、特殊学級における教科別の指導の充実に役立てていくものとする。

研究の仮説

小・中学校の特殊学級において、教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を図る手だてを作成し、指導への活用を図るならば、実生活に関連付けた学習課題の設定や授業の組み立てを行うことが可能になり、特殊学級の教科別の指導の充実に役立つであろう。

研究の年次計画

この研究は、平成17年度から平成18年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成17年度）

特殊学級における教科別の指導の現状と課題を把握するための実態調査、調査結果の分析・考察、算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての構築

第2年次（平成18年度）

算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だてに基づく指導実践、特殊学級における教科別の指導の在り方に関する研究のまとめ

本年度の研究内容与方法

1 研究の目標

算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての試案を作成し、指導実践を行い、特殊学級における教科別の指導の在り方と実生活との関連性を明らかにする。

2 研究の内容与方法

- (1) 算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての構築（文献法）
算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だてを検討し、まとめる。
- (2) 算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だてに基づく指導実践（質問紙法、観察法）

手だてに基づいた指導実践を行い、手だての妥当性と有効性を検証する。

(3) 指導実践の分析・考察

特殊学級担任に対する手だてを活用した指導に関する調査を行い、指導実践の分析と考察を行う。

(4) 特殊学級における教科別の指導の在り方に関する研究のまとめ

算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての活用から、特殊学級における教科別の指導の在り方と実生活との関連性を明らかにする。

3 研究協力校

花巻市公立中学校

昨年度の研究の概要

1 特殊学級における教科別の指導の在り方に関する基本的な考え方

(1) 特殊学級における算数・数学科の指導の在り方の現状

知的障害特殊学級及び情緒障害特殊学級（以下、特殊学級と表記）の教育課程は、法的な根拠（学校教育法第75条、学校教育法施行規則73条の19）により、特別の教育課程を編成することが認められている。この場合、特別の教育課程を編成するに当たっては、学校教育法に定める小・中学校の目的及び目標を達成するものでなければならないことは言うまでもない。しかし、特殊学級の算数・数学科では、教科の目的や目標を達成するために学年相応の学習内容を指導することは極めて少ない。これは、算数・数学科の学習が、特殊学級の児童生徒にとって苦手とする、識別・抽象・統合・推理・判断等の数量や図形に関する法則性をもった学習が中心になると考えられているからである。したがって、小・中学校の特殊学級では、学級の実態や児童生徒の障害の程度等を十分考慮した上で、盲学校、聾学校及び養護学校の小学部・中学部学習指導要領を参考に教育課程を編成することが認められている。

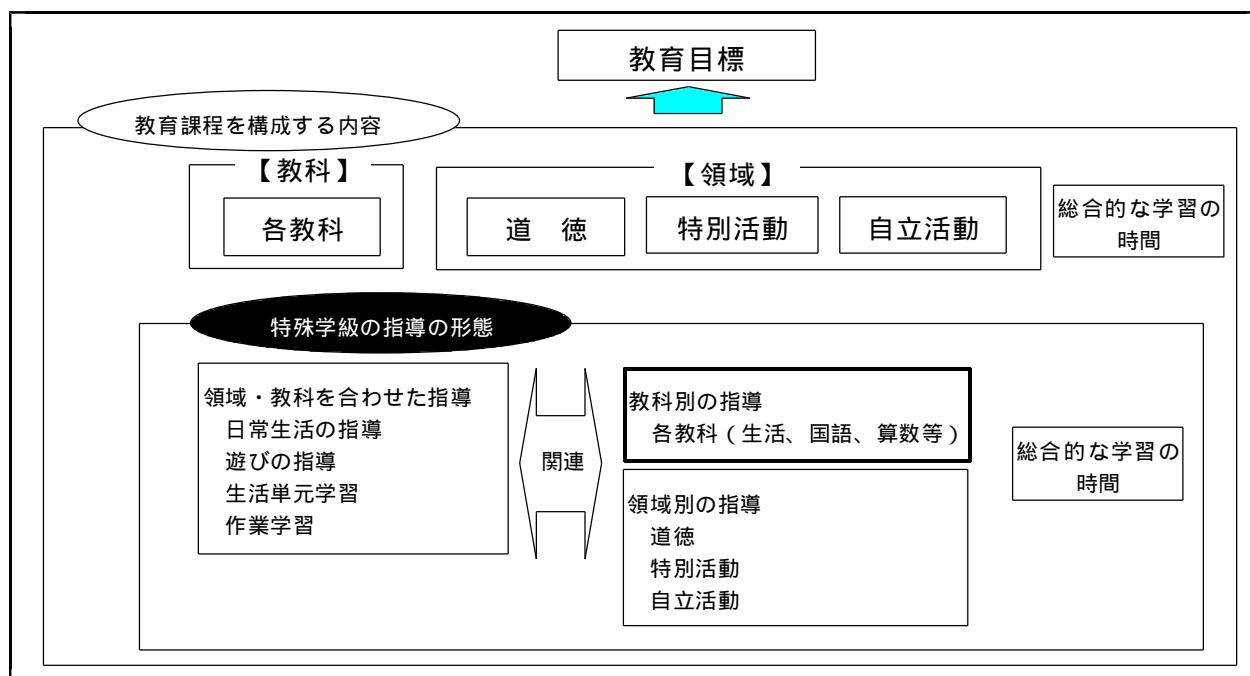
一般に、知的発達に遅れのない児童生徒の教育課程は、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習によって編成されている。一方、特殊学級においては、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間で内容を整理し、それらを合科、統合して、実際の生活に対応した指導の形態として再編成した領域・教科を合わせた指導が行われている。領域・教科を合わせた指導には、特殊学級児童生徒が、その生涯にわたって自立的、主体的な生活の実現を目指し、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習がある。また、これと関連したものとして、教科別、領域別の指導が行われている。教科別、領域別の指導とは、その指導の形態から国語や算数（数学）等の時間を設けて行う教科別の指導と道徳、特別活動、自立活動の領域別の指導のことである。特殊学級における教育課程を図で表すと次ページの【図1】となる。

本研究における算数・数学科の指導とは、特殊学級の教育課程における「教科別の指導としての算数・数学科」（以下、特殊学級における算数・数学科と記述）であり、知的発達に遅れのない児童生徒の教育課程における各教科の算数・数学科とは異なるものである。

(2) 特殊学級における算数・数学科の指導の在り方に関する研究の意義

特殊学級児童生徒への算数・数学科の指導の充実があらためて取り上げられている背景の一つには、保護者からの教育的ニーズがある。それは、算数・数学科の授業で身に付けた力を実生活の中で活用できるようにしてほしいというニーズである。しかし、小・中学校の特殊学級では、こうした教育的ニーズに応えるための具体的な方法や取組に対して検討が不十分であり、

保護者との連携を重視した実践的な取組を手だてとして構築する段階には、まだ至っていないと考えられる。また、特殊学級における算数・数学科の在り方に関するこれまでの研究の多くは、題材の工夫、教材の開発に視点を当てたものを取り上げている研究であり、このことから実生活に活用することを第一に据えた特殊学級の算数・数学科の指導について追究することは意義があることと考える。

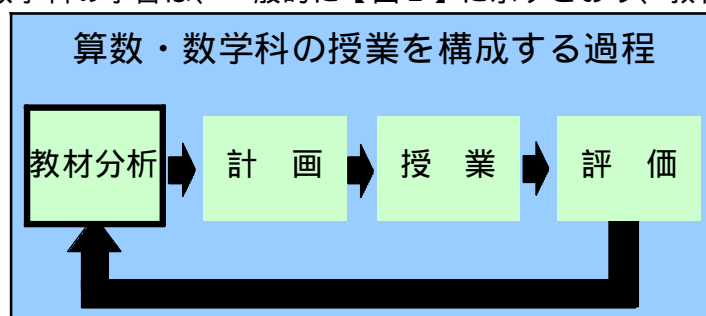


【図1】特殊学級における教育課程

(3) 特殊学級における算数・数学科の指導の在り方に関する基本的な考え方

ア 算数・数学科の授業を構成する過程

小・中学校で行われている算数・数学科の学習は、一般的に【図2】に示すとおり、教材分析を基に学習計画を立て、授業を行い、評価をするという一連の過程に沿って行われている。これは、特殊学級の算数・数学科の学習についても同様であるが、特に特殊学級における「教材分析」は、教材をとおして教えることの意味や目的を実生活の中で生きる力としてとらえ、



【図2】算数・数学科の授業を構成する過程

児童生徒の実態を基に明らかにしていくものであり、授業の根幹をなすものであると考える。

イ 教材分析を行うための視点

特殊学級担任は、特殊学級を初めて担当する者や、特殊教育経験年数が浅い者であることが少なくない。そのため、算数・数学科における既習事項の理解や程度に関する児童生徒の実態を把握することに難しさを感じている。また、児童生徒の実態に応じた学習課題を設定することや授業の組み立てに困難さを抱えていることが多い。これは、具体的な指導方法、評価の分

析に多くの時間を費やしているのに対して、教材分析の視点、すなわち児童生徒の実態把握や系統性を踏まえた題材の設定、実生活における活用等に目を向け、あらためて問い直す機会が少ないためと思われる。

そこで、本研究では、教材分析をする際の視点として【表1】に示すとおり、実態把握・系統性・実生活ととらえ、研究を進めていくこととした。

【表1】教材分析を行うための視点

実態把握	算数・数学科における既習事項の内容や理解の程度及び、家庭生活における活用の状況やニーズを把握すること
系統性	算数・数学科における題材の順序性や発展性を見いだすこと
実生活	算数・数学科で学習したことを学校生活や家庭生活の中に生かすこと

2 特殊学級における教科別の指導の在り方に関する実態調査と調査結果の分析・考察

(1) 調査目的

本調査は、県内の小・中学校の特殊学級を対象に、算数・数学科の指導の在り方の現状と課題を明らかにし、望ましい指導の在り方の資料を得るために実施した。

(2) 調査のまとめ

ア 小・中学校の特殊学級担任の多くは、個別の面談や授業観察を実態把握の方法として行っており、客観的に実態を把握することの有効性に対する意識にまで及んでいないことが明らかになった。また、保護者との面談という方法を実態把握の方法として上げている教師が少ないことから、実生活における算数・数学科の活用状況を児童生徒の実態としてとらえている教師が少ないことが明らかになった。

イ 小・中学校の特殊学級担任の多くは、児童生徒の障害特性から系統性のある題材を設定することに難しさを抱えていることが明らかになった。また、実生活に即した題材を設定するために、題材間の系統性に視点を当て、題材を選定している教師が少ないことが明らかになった。

ウ 今回の調査結果から、学習した題材を実生活に生かすために工夫していることとして、生活単元学習や学級・学校行事と関連づけた指導をしていることや、他教科の学習の中で活用できるようにしていることが分かった。また、家庭と協力しながら、実生活の中で活用できるようにしようとする取組に対して、困難さを感じている教師が多いことが明らかになった。

3 特殊学級における教科別の指導の在り方に関する基本構想の立案

(1) 特殊学級における算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性

特殊学級における算数・数学科は、「教科別の指導としての教科」である。「教科別の指導」の指導計画を作成するにあたっては、他の教科、道徳、特別活動、自立活動及び総合的な学習の時間との関連、また、領域・教科を合わせた指導との関連を図るとともに、児童生徒が習得したことを実際の生活に役立てるようにする必要があるとされている。つまり、特殊学級における算数・数学科の指導は、実生活との関連性を考慮して組み立てられなければならないと考える。

(2) 教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を図る手だて

教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導は、【表1】に示した「実態把握」「系統性」「実生活」を基に適切な学習内容を設定することが必要であると考えられる。

「実態把握」に関する手だてには、教師の観察による学校生活場面での算数・数学科の活用の実態把握と保護者の観察による家庭生活場面での算数・数学科の活用の実態把握が必要であると

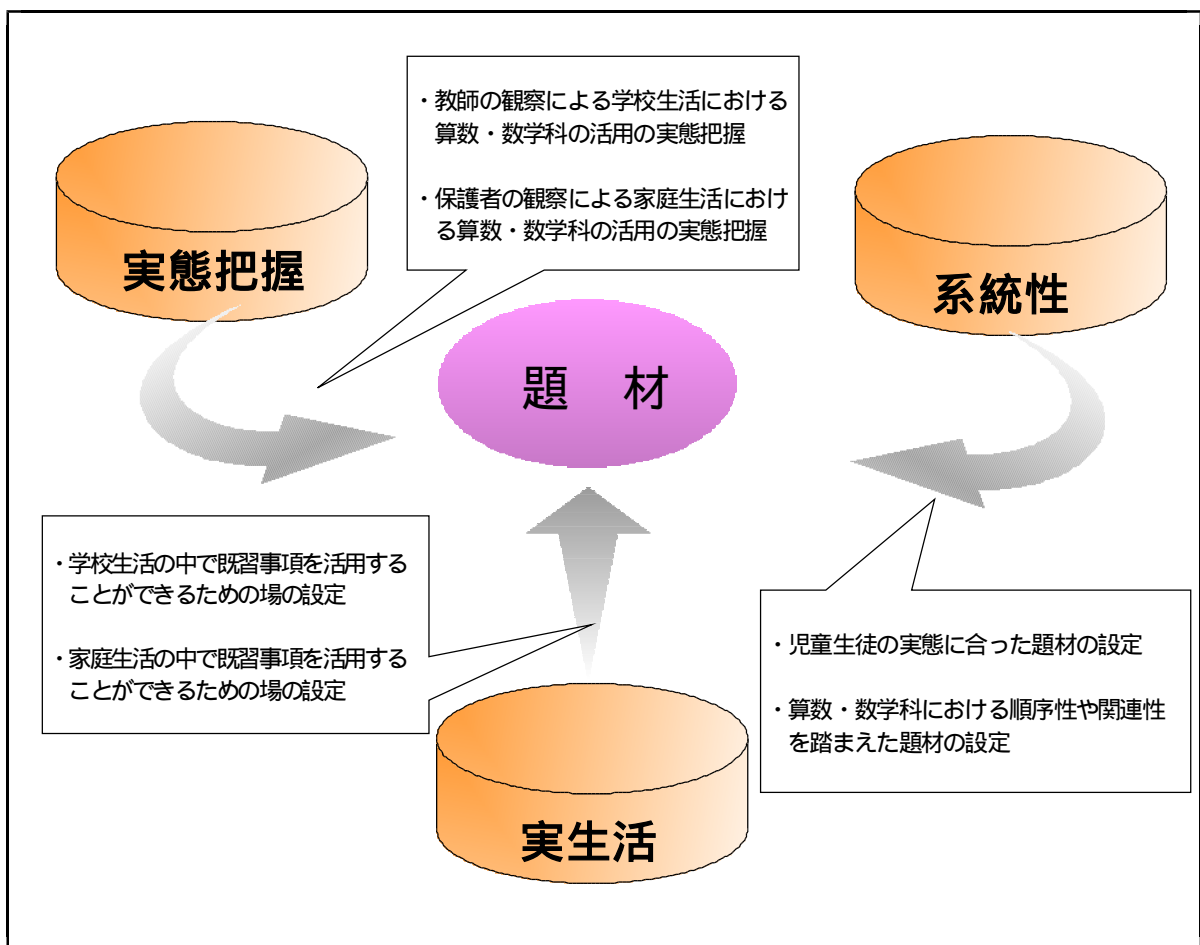
考える。教師の観察による実態把握を行うための手だてとして「実態把握チェックシート」「学習到達度チェックシート」を作成する。「実態把握チェックシート」とは、児童生徒の算数・数学科における既習事項の理解の状況を大まかに把握することで、年間指導計画に役立てることを目的とする。

「学習到達度チェックシート」は、その題材における具体的な学習課題の設定に役立てることを目的とするものである。保護者の観察による実態把握を行うための手だてとして「家庭生活における算数・数学科の実態調査シート」を作成する。

「系統性」に関する手だてには、児童生徒の実態にあった題材であること、算数・数学科における順序性や発展性を踏まえた題材であることが必要である。そのためには「特殊学級における領域内の系統性と題材間の関連マップ」を作成する。

「実生活」に関する手だてには、既習事項を学校生活に関連付けることと、家庭生活に関連付けることができるようにすることが必要であると考え。学校生活の中で関連付ける手だてとして「他教科・領域と算数・数学科の題材の関連マップ」を作成する。家庭生活の中で関連づける手だてとしては、前述の「家庭生活における算数・数学科の実態調査シート」を利用することで、学校で身に付けた力を家庭生活に生かすことができると考える。

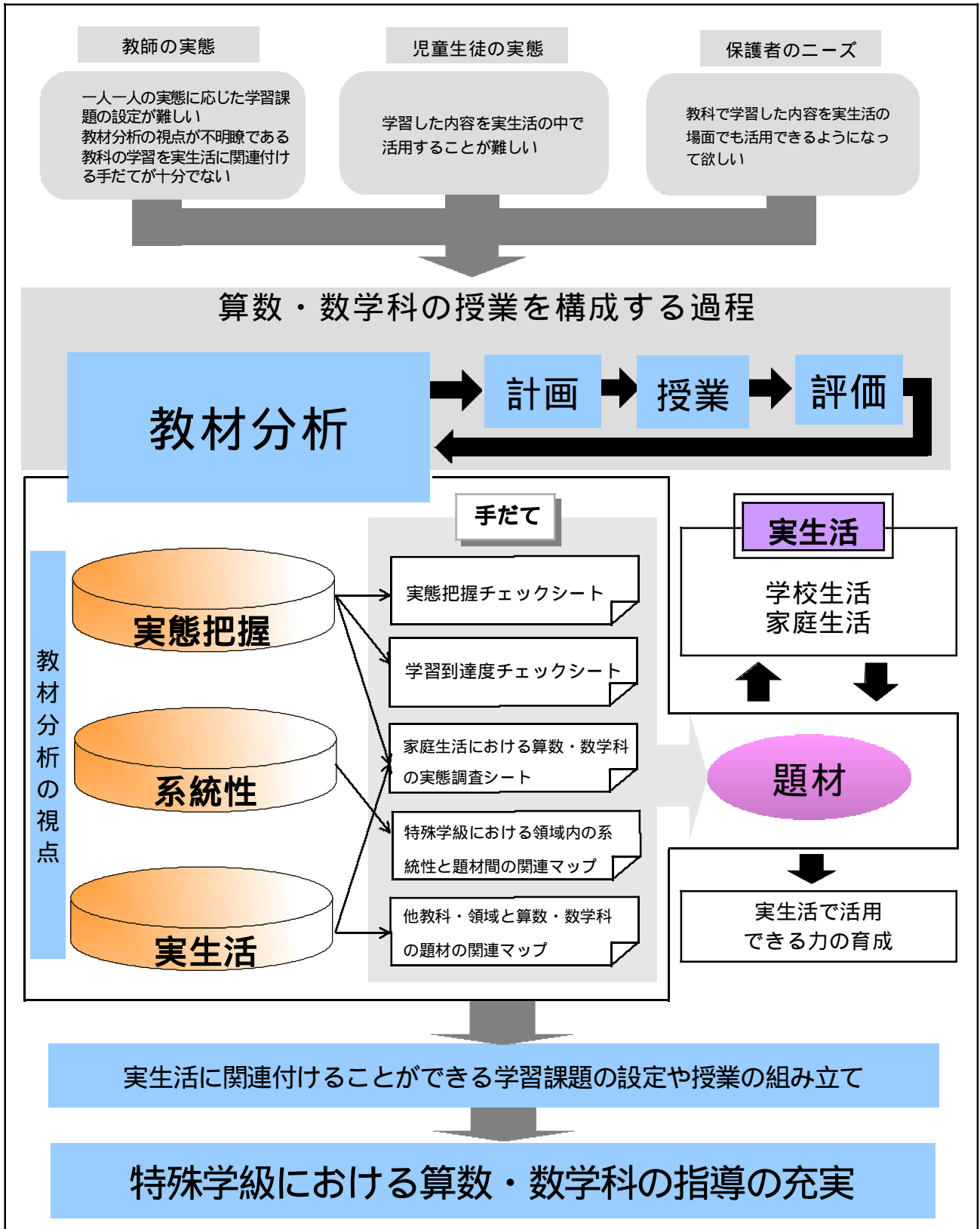
これらのことを【図3】のようにまとめた。



【図3】実生活との関連性を踏まえた教材分析の視点

(3) 特殊学級における教科別の指導の在り方についての基本構想図

【図4】に 特殊学級における教科別の指導の在り方についての基本構想図を示す。



【図4】 特殊学級における教科別の指導の在り方についての基本構想図

本年度の研究の分析と考察

1 算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての構築

(1) 実生活に関連付けるための特殊学級における算数・数学科の指導領域と題材（学習内容）の選定

特殊学級における算数・数学科の客観的な実態把握を行うためには、特殊学級における算数・数学科の指導領域や学習内容を明確にする必要がある。そこで、小・中学校の学習指導要領と盲・聾・養護学校の学習指導要領を基に、実生活に関連付けるための特殊学級における算数・数学科の領域と題材（学習内容）を選定し、【表2】のようにまとめた。

【表2】 実生活に関連付けるための特殊学級における算数・数学科の指導領域と題材（学習内容）

	数の計算・金銭	量と測定	図形・数量関係
題材（学習内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・数の基礎概念 ・集合数 ・順序数 ・加法 ・減法 ・乗法 ・除法 ・金銭 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の基礎概念 ・時刻・時間の基礎概念 ・時刻・時間 ・暦の基礎概念 ・暦 ・長さの基礎概念 ・長さ ・重さの基礎概念 ・重さ ・広さの基礎概念 ・広さ（面積） ・かさの基礎概念 ・かさ（体積） 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の基礎概念 ・図形・数量の基礎概念 ・形 ・位置・方向 ・形の合成・分解 ・作図 ・表とグラフの基礎概念 ・表とグラフ

【表2】は、特殊学級における算数・数学科の領域を「数の計算・金銭」「量と測定」「図形・数量関係」の3領域に編成し、それぞれの領域ごとに実生活で必要と思われる算数・数学科の題材をあげたものである。この表は、特殊学級担任が算数・数学科の年間指導計画を作成する際にどのような領域や題材があるかを確認することに役立てることを目的とする。

(2) 特殊学級における算数・数学科の実態把握のための手だて

【表2】を基に、児童生徒の既習事項や理解の程度を大まかに把握するために「実態把握チェックシート」次ページ【図5】を作成した。このチェックシートは、【表2】の題材に沿ってそれぞれの理解の状況を指導の段階に沿って配列し、「A：自らの判断で正しく行うことができる」「B：部分的な支援があれば正しく行うことができる」「C：多くの場面で支援が必要である」の三段階で評価することによって、対象児童生徒の算数・数学科における既習事項の内容の理解の程度をおおまかに把握し、その結果を年間指導計画の作成に役立てることを目的として作成した。

「実態把握チェックシート」を年度当初に特殊学級担任が活用することによって、年間指導計画の作成に役立てることができると思う。また、全ての領域・学習内容における児童生徒の理解の状況を短時間で確認するものとして有効ではないかと考えた。

実態把握チェックシート				
学習内容	理解の状況	A	B	C
		数の基礎概念	色や形の違いが分かる 同じ色や形のものを集めることができる ⋮	
集合数	物をひとつ、ふたつと数えることができる(数詞がわかる) ⋮			
金銭	お金の種類を弁別することができる 硬貨・紙幣の名称を言うことができる 単一硬貨や紙幣を10枚まで数えることができる 各硬貨間及び紙幣間の等価関係が分かる 実生活の中で買い物することができる			

評価 A：自らの判断で正しく行うことができる
B：部分的な支援があれば正しく行うことができる
C：多くの場面で支援を必要である

【図5】実態把握チェックシート(「数と計算」・「金銭」領域の抜粋)

学習到達度チェックシート<金銭>					
	主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
			金 銭 の 習	1 お金の種類を弁別することができる	① 1円、5円、10円、50円、100円、500円をそれぞれの金額に分けることができる ② 1,000円、2,000円、5,000円、10,000円をそれぞれの金額に分けることができる
2 硬貨・紙幣の名称を言うことができる	① 1円、5円、10円、50円、100円、500円の名称を言うことができる ② 1,000円、2,000円、5,000円、10,000円の名称を言うことができる				
3 単一硬貨や紙幣を10枚まで数えることができる	① 1円硬貨10枚までの金額を数えることができる ② 10円硬貨10枚までの金額を数えることができる ③ 100円硬貨10枚までの金額を数えることができる ④ 1,000円紙幣10枚までの金額を数えることができる				
4 各硬貨間及び紙幣間の等価関係が分かる	① 10円と1円10枚、100円と10円10枚、1,000円と100円10枚の等価関係がわかる ② 5円と1円5枚、50円と10円5枚、500円と100円5枚の等価関係がわかる ③ 10円と5円2枚、100円と50円2枚、1,000円と500円2枚の等価関係がわかる ④ 5,000円と1,000円5枚、10,000円と1,000円10枚の等価関係がわかる				
5 両物の量より大きなお金を支払って買い物することができる	① 100円以下の両物に100円を支払うことができる ② 500円以下の両物に500円を支払うことができる ③ 1,000円以下の両物に1,000円を支払うことができる ④ 1,000円より高い両物に対して、適当な枚数の硬貨や紙幣を支払うことができる				

※評価の観点 A：できる【わかる】と思われる
B：部分的な支援があればできる【わかる】と思われる
C：できない【わからない】と思われる

【図6】学習到達度チェックシート<金銭>より抜粋

【図5】によって、一人一人の児童生徒の学習すべき内容(題材)を明らかにし、その後、その学習すべき内容(題材)に関する具体的な実態把握を行うためのチェックシート(【図6】学習到達度チェックシート< >(は学習内容が入る))を作成した。

このシートは、実際に授業を行う際の指導目標を具体的にどこに設定にすればよいのかを示すことを目的とする。

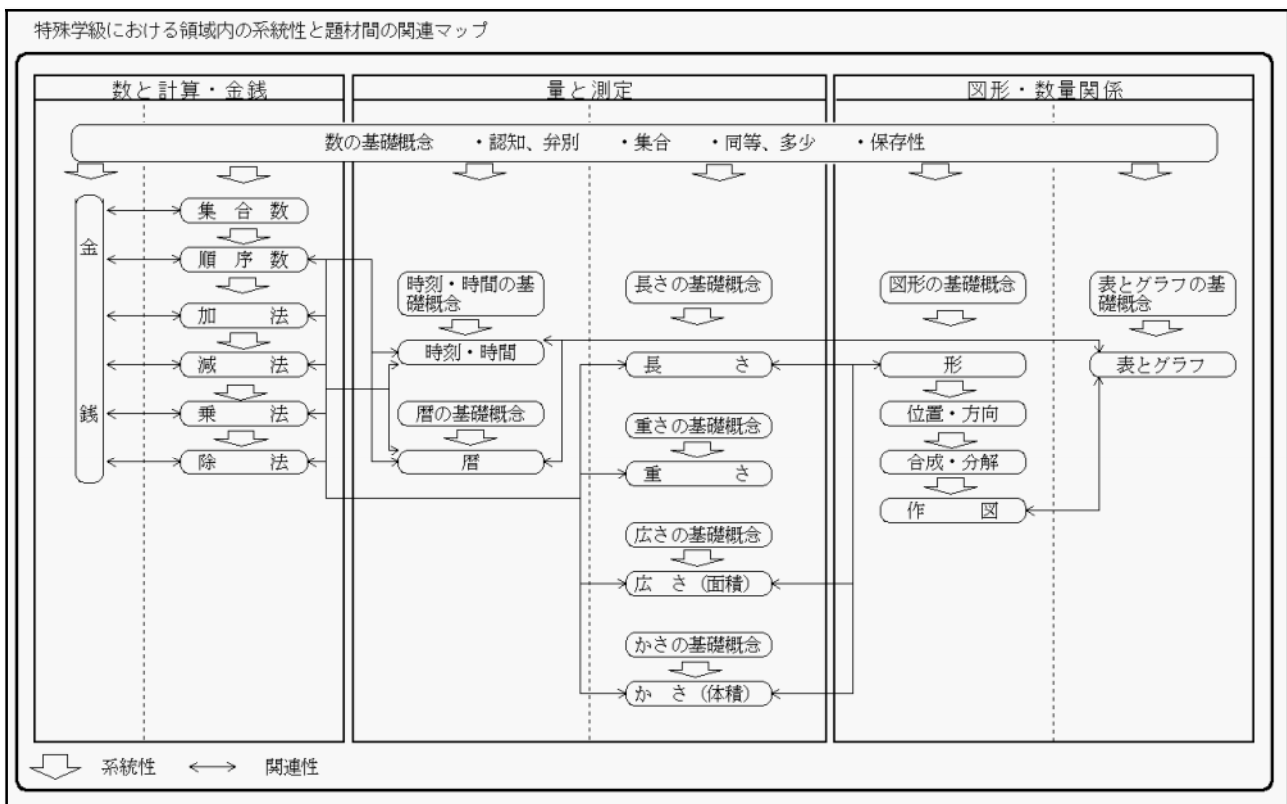
具体的な内容は、【図6】に示すように、それぞれの題材における「主なねらい」と「具体的な指導目標」からなっており、各具体的な指導目標ごとに、A、B、Cの3段階で評価することによって、児童生徒のその題材における具体的な学習到達度の状況を把握しようとするものである。

学習後に、このシートを再度活用し、評価することで、次年度の実態把握の資料になると考える。

また、家庭生活における算数・数学科の力の活用状況を把握するものとして、「家庭生活における算数・数学科の実態調査シート(金銭)」(10ページ(4)の【図8】)を作成した。

(3) 特殊学級における算数・数学科の題材間の系統性を明らかにするための手だて

【表2】をもとに、題材間の系統性や関連性を示すものとして、【図7】の「特殊学級における領域内の系統性と題材間の関連マップ」を作成した。



【図7】特殊学級における領域内の系統性と題材間の関連マップ

このシートは、実際の授業において、題材を指導するためにはどのような力が関連しているのかを確認し、学習到達度チェックシートと合わせて使用することで、児童生徒が題材に取り組むために必要な学習課題の設定に役立てることを目的とする。これにより、児童生徒一人一人に応じた学習課題の設定が可能になり、児童生徒にとっては、自分の理解の程度に応じた課題となることから、学習への意欲を持って取り組むことができると考える。

(4) 特殊学級における算数・数学科の学習を実生活に活用するための手だて

ア 家庭生活で活用するための手だて

特殊学級で学習した算数・数学科の学習内容を家庭生活で活用できるようにするための手だてとして、家庭生活における算数・数学科にかかわる事柄の現状や保護者のニーズを把握し、実生活で必要とされている具体的な内容を授業に反映することを目的とした「家庭生活における算数・数学科の実態把握調査シート(金銭)」(次ページ【図8】)を作成した。このシートは、次に学習する題材に関する家庭での様子を保護者にチェックしてもらい、児童生徒の実態を把握するものである。各チェック項目ごとに「できる」場合には をつけてもらう形で作成した。このシートを活用することで、家庭での算数・数学科の力の活用状況を把握するとともに、保護者のニーズも把握することで、より実生活に即した学習内容にすることができると考える。

(5) 算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての試案

ア 各手だてのねらいと内容

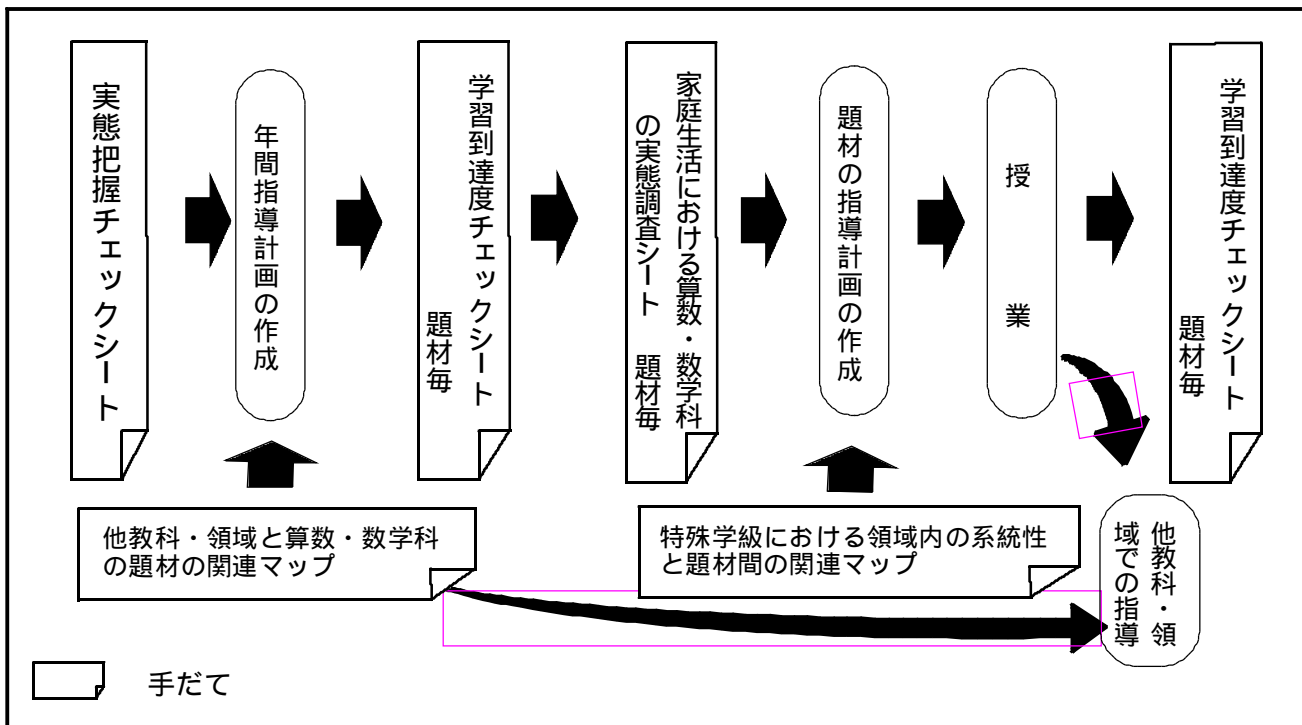
これまで述べてきた各シートやマップについてまとめると【表3】になる。

【表3】各シート及びマップのねらいと内容

	シート名	ねらい	主な内容	活用時期
実態把握	実態把握チェックシート	既習事項の理解の程度をおおまかに把握することに役立てる	題材毎の主な指導内容と3段階評価	年度当初
	学習到達度チェックシート <題材毎>	題材毎の理解の程度を具体的に把握し、指導目標の設定に役立てる	題材毎の主なねらいと3段階評価具体的な指導目標	指導前後
	家庭生活における算数・数学科の実態調査シート <題材毎>	家庭生活における児童生徒の実態と保護者のニーズを把握(実態把握)し、より実生活に即した学習内容を設定することに役立てる(実生活)	題材における家庭での算数・数学科の力の活用に関する内容	指導前
実生活	他教科・領域と算数・数学科の題材の関連マップ	実生活における算数・数学科の力を活用する機会を設け、学習効果を高めることに役立てる	算数・数学科の題材一覧と他教科・領域の関連した学習内容	年度当初 指導前後
系統性	特殊学級における領域内の系統性と題材間の関連マップ	題材を指導する際に関連した学習内容を確認し、個に応じた指導目標の設定に役立てる	領域毎に題材名を配列し、関連する題材を結んだもの	年度当初 指導前

イ 算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての試案

【表3】を基に、算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての試案として考えたものが【図10】である。



【図10】算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての試案

2 算数・数学科の指導と実生活との関連性を踏まえた手だての試案に基づく指導実践

(1) 指導実践計画

ア 研究協力校の特殊学級の概要

手だての試案に基づく指導実践は、花巻市公立中学校の特殊学級の協力を得て実施した。(この学級を以下A学級とする)

イ 手だての試案に基づく指導実践計画

手だての試案に基づく指導実践は、【表4】に示す計画により実施した。

【表4】手だての試案に基づく指導実践計画

月	指導実践の内容
8	・「具体的な手だての試案」の提示と活用に関する説明 ・「実態把握チェックシート」、「学習到達度チェックシート<金銭>」、「家庭生活における算数・数学科の実態調査シート<金銭>」の活用
9	・手だての試案に基づく学習計画の立案、特殊学級担任による授業

* 今回の指導実践では対象学級の年間指導計画により「金銭」を取り上げた

(2) 手だての試案に基づく指導実践

ア 実態把握チェックシートの活用

特殊学級担任が対象生徒に実態把握チェックシートを活用した結果、対象生徒は「量と測定(重さ)」、「量と測定(広さ)」、「量と測定(かさ)」、「図形・数量関係(図形)」、「図形・数量関係(表とグラフ)」の題材において理解が不十分であることがわかった。このシートの活用によって、特殊学級担任からは、今まで指導してこなかった題材(学習内容)に気付くことができた。

イ 学習到達度チェックシート<金銭>の活用

「学習到達度チェックシート<金銭>」を活用した結果、「金銭」の題材における学習課題の設定に役立たせることができた。具体的には、【図11】に示すように、学習到達度チェックシートで「B：部分的な支援があればできる(わかる)」と思われるにチェックされた項目が、授業の指導計画の中に活用されていた。実態把握チェックシートの「金銭」に関する項目では、ほとんどが「A：できると思われる」となっていたが、「学習到達度チェックシート」によって、学習する必要がある項目を明らかにすることができた。

具体的な指導目標	題材の目標
1,000円、2,000円、5,000円、10,000円の名称を言うことができる	(1) 品物の値段に見合ったお金(硬貨や紙幣を組み合わせ)を支払って買い物することができる
1,000円紙幣10枚までの金額を数えることができる	(2) 割引や値引きされた金額が分かる
10円と1円10枚、100円と10円10枚、1,000円と100円10枚の等価関係が分かる	(3) 小遣い帳をつけて計画的なお金の使いかができる 割引や値引きされた金額が分かる
5,000円と1,000円5枚、10,000円と1,000円10枚の等価関係が分かる	指導計画(12時間) (1) オリエンテーション(1時間)
1,000円より高い品物に対して、適当な枚数の紙幣や硬貨を支払うことができる	(2) お金の弁別ができ、10枚数えることができる(2時間)
硬貨と紙幣を組み合わせで支払うことができる(例：1,734円)	(3) 硬貨や紙幣間の等価関係が分かる(3時間)
100円の2割(20%)、3割(30%)引きの値段が分かる	(4) 品物より大きなお金を使って支払うことができる(2時間)
小遣い帳にかかった品物、支払ったお金、お釣りをそれぞれ記入することができる	(5) 割引や値引きされた金額が分かる(2時間)
	(6) 小遣い帳をつけることが分かる(2時間)

(「学習到達度チェックシート(金銭)」より) (学習指導案より)

【図11】学習到達度チェックシート<金銭>と学習指導案の関係

ウ 家庭生活における算数・数学科の実態調査シート〈金銭〉の活用

保護者に対して「家庭生活における算数・数学科の実態調査〈金銭〉」を特殊学級担任を介して実施した。その結果、家庭における生徒の金銭についての実態を把握することができたことや保護者が子どもに対して感じている金銭にかかわる課題を知ることができた。このことから、家庭生活への活用を考えた算数・数学科の学習課題を設定する際の資料として役立てていることが分かった。

(3) 授業の様子

ア 授業の展開

10時間目の「小遣い帳をつけることができる」の時間に実際の授業の様子を参観した。指導案の略案（展開例）は次ページ【資料】のとおりである。

担任によると、本生徒は小遣い帳をつけたことはほとんどなかったが、保護者からの実態調査の自由記述で「お金の価値どのように理解させたらよいか難しいときがあります」とあったことから、お金の価値を理解するための方法の一つとして、今回取り上げることとなった。また、本生徒は、卒業後の進路に向けて、自分で計画的にお金を使うことを覚え、実生活の場面で活用するために力をつける必要があることから、今回の「小遣い帳をつけることができる」という目標の設定は、本生徒のニーズに合った課題として取り上げられた。

小遣い帳の付け方を学習するにあたって、担任は、実生活で使うことを意識して手だてを講じていた。具体的には、生徒が生活単元学習の時間に買い物に行った際のレシートを使って、レシートの見方の学習をしたり、お釣りとレシートの支払金額を足すと自分が支払った金額になることを確認したりするなど、実際の経験を振り返りながら、実感としてレシートの大切さを知ることができるよう工夫されていた。

学習活動の中に「レシートの内容を読み取る」とある。これは、事前の学習到達度チェックシート〈金銭〉では、「A：できる（わかる）と思われる」になっていたものであるが、学習の過程の中に取り入れ、確認を行った。その結果、「レシートの内容を読み取る」の学習内容は、十分に身につけていることを確認することができた。ただし、実際に小遣い帳をつける学習では、小遣い帳をつけることが初めてだったので、記入の仕方や考え方でとまどうところがあり、本時の中で「記入できる」という段階までは理解を進めることができなかった。

しかし、学習中の様子からは、本生徒が主体的に一生懸命取り組んでいる様子が見られた。それは、本時の学習内容が、本生徒の興味関心を生かした内容であったことや、本生徒の実態にあった学習課題の設定であったと考えられる。さらに、学校生活（生活単元学習）での経験を取り入れたことにより、見通しをもって学習することができ、本生徒にとって、取り組みやすい学習になったと考えられる。

【資料】A学級 数学科学習指導案（略案）

A学級 数学科学習指導案（略案）

日 時：平成18年 9月28日(木) 4校時
場 所：A学級
対 象：3学年
指 導 者：A学級担任

- (1) 本時の目標
小遣い帳をつけることができる。
- (2) 具体的なめあて
レシートから、自分がいくらお金を支払ったのかがわかる。
レシートから、お釣りの表示金額と実際のお釣りの金額が同じであることがわかる。
小遣い帳に買った品物、支払ったお金、お釣りをそれぞれ記入することができる。
- (3) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	備考
導 入 10 分	1 始めの挨拶		1 声の大きさと姿勢について声がけする。	
	2 前時までの振り返り	2 前時までの学習を振り返ることができる。 お金の弁別 等価交換 買い物 値引き	2 興味を持って学習に臨めるよう、ゲーム形式にする。	袋 お金
	3 本時の目標	3 本時の目標を発表することができる。	3 具体的なめあてを紙板書で提示する。	紙板書
展 開 35 分	4 レシートの読み取り	4 レシートの内容を読み取ることができる。 買い物した月日 買った品物と金額 合計金額 支払った金額 お釣りの金額	4 これまでの生活単元学習で行った買い物学習の場面を想起させる。	レシート
	5 小遣い帳の記入	5 小遣い帳に記入することができる。 所持金 品物の名前 品物の金額 支払った金額 お釣り	5 どこに、何を記入すればよいのか実例を示す。	小遣い帳
終 末 5 分	6 本時のまとめ	6 できたこと、難しかったことを感想を含めて発表することができる。	6 できたこと、難しかったことを紙板書にまとめる。(次時の導入時に使用する)	小遣い帳 紙板書
	7 次時の学習内容の確認	7 次時の学習内容を理解することができる。	7 本時の学習で難しかったことが解決できるよう励ます。	
	8 終わりの挨拶		8 声の大きさと姿勢について声がけする。	

- (4) 評価の観点
学習に意欲的に取り組むことができたか
レシートの内容を読み取ることができたか
小遣い帳を記入することができたか

学習活動の中に「レシートの内容を読み取る」とある。これは、事前の学習到達度チェックシート（金銭）では、「A：できる（わかる）と思われる」になっていたものであるが、学習の過程の

中に取り入れ、確認を行った。その結果、「レシートの内容を読み取る」の学習内容は、十分に身につけていることを確認することができた。ただし、実際に小遣い帳をつける学習では、小遣い帳をつけることが初めてだったので、記入の仕方や考え方でとまどうところがあり、本時の中で「記入できる」という段階までは理解を進めることができなかった。

しかし、学習中の様子からは、本生徒が主体的に一生懸命取り組んでいる様子が見られた。それは、本時の学習内容が、本生徒の興味関心を生かした内容であったことや、本生徒の実態にあった学習課題の設定であったと考えられる。さらに、生活単元学習での経験を取り入れたことにより、見通しをもって学習することができ、本生徒にとって、取り組みやすい学習になったと考えられる。

イ 授業後における「学習到達度チェックシート」の評価

「学習到達度チェックシート<金銭>」を活用して、指導実践後に生徒がどのように変容したかを評価した結果が【図12】である。この図からは、「A：できる（わかる）と思われる」となったものもあれば、評価が変わらなかったものがある。評価が変わらなかった項目については、特殊学級担任によると、本生徒にあった教材を提示することができなかったことや、「金銭」に関連する項目である「数と計算」の理解の状況により、達成することが難しい指導目標であったからではないかと感じているようであった。

具体的な指導目標	A	B	C
1,000円、2,000円、5,000円、10,000円の名称を言うことができる	● ← ○		
1,000円紙幣10枚までの金額を数えることができる	● ← ○		
10円と1円10枚、100円と10円10枚、1,000円と100円10枚の等価関係がわかる	● ← ○		
5,000円と1,000円5枚、10,000円と1,000円10枚の等価関係がわかる	● ← ○		
1,000円より高い品物に対して、適当な枚数の紙幣や硬貨を支払うことができる		● ○	
硬貨と紙幣を組み合わせで支払うことができる（例：1,734円）	● ← ○		
100円の2割（20%）、3割（30%）引きの値段がわかる		● ○	
小遣い帳にかかった品物、支払ったお金、お釣りをそれぞれ記入することができる		● ○	

○：授業実践前の評価
●：授業実践後の評価

（「学習到達度チェックシート<金銭>」より）

※評価の観点
A：できる（わかる）と思われる
B：部分的な支援があればできる（わかる）と思われる
C：できない（わからない）と思われる

【図12】指導実践後の学習到達度チェックシート<金銭>の評価

ウ 指導実践後の各シートの活用に対する特殊学級担任からの意見

指導実践後に、各シートの活用について特殊学級担任からいただいた意見は【表5】のとおりである。

【表5】指導実践後の各シートの活用に対する特殊学級担任からの意見

シート・マップ名	研究協力校の特殊学級担任からいただいた意見
実態把握チェックシート	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊学級で学習する内容が各領域毎によく整理されており、生徒の実態を大まかに把握することができた ・この生徒は、「量と測定（重さ）」「量と測定（広さ）」「量と測定（かさ）」「図形・数量関係（図形）」「図形・数量関係（表とグラフ）」の理解に困難さを持っていることが分かった ・これまで指導してこなかった題材（学習内容）が明らかになり、今後の指導に役立つものであると感じた ・生徒のつまずきや課題がどこにあるのかを知ることができた
学習到達度チェックシート <金銭>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を具体的かつ客観的に把握することができた ・題材における学習課題の設定に役立った ・題材の指導計画の立案に役立った
家庭生活における算数・数学科の実態調査シート <金銭>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活における生徒の実態が見えてきた ・保護者のニーズを知ることができた ・学習計画の立案に役立つ情報であると感じた ・質問事項を家庭生活の実態に合った内容にした方がよいのではないか ・「金銭」以外の題材についても、保護者が簡単に記録できるような調査シートが欲しい
特殊学級における算数・数学科の領域内の系統性と題材間の関連マップ	<ul style="list-style-type: none"> ・「金銭」の学習をするためには、どのような学習内容が理解されていないのか、また、どのような学習と関連付けながら学習を進めたらよいのかが分かった ・実態把握チェックシートと合わせてみることで、その生徒がどこの領域や題材に弱さがあるのかを把握することができ、そのつまずきがどのように他の題材に関係しているのかを知ることができた ・年度当初の年間計画を作成する際に活用したい
他教科・領域と算数・数学科の題材の関連マップ	<ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習で経験した買い物学習と関連させたことで理解を深めることができた ・数学科で学習した内容を日常生活や学校生活の中で活用するための視点として参考になるのではないかと思われる ・今回の「金銭」の学習を受けて、生活単元学習と関連させながらさらに学習を深めていきたい

3 指導実践の分析と考察

(1) 実生活に関連付ける特殊学級の算数・数学科の指導領域と題材（学習内容）の選定について

実生活に関連付ける算数・数学科の指導領域と題材（学習内容）を選定し、特殊学級担任に提示したことにより、特殊学級担任がこれまで指導してこなかった題材があることや実生活に必要な題材を取り上げることができなかつたことを明らかにすることができた。また、この手だてを活用することによって、年間指導を作成する上で個の実態に応じた題材の役立つことが分かった。

(2) 特殊学級における算数・数学科の実態把握のための手だてについて

「実態把握チェックシート」を活用することによって、生徒がどこにつまずきや課題があるかを大まかに把握することができたことから、このシートは生徒の実態を把握できる手だてであったと考えられる。しかし、学習到達度チェックシートとの関係を考えてときに、同じようなチェックを2度行うというのは活用上現実的とは言えない。実際に「学習到達度チェックシート〈金銭〉」は、学習する題材についての児童生徒の実態を具体的かつ客観的に把握するだけでなく、題材（学習内容）における学習課題の設定にも役立つことがわかった。このことから、「学習到達度チェックシート」のみを実態把握のための手だてとして活用してもよいのではないかと考える。

(3) 特殊学級における算数・数学科の題材間の系統性を明らかにするための手だてについて

「特殊学級における領域内の系統性と題材間の関連マップ」を活用することによって、算数・数学科における順序性や発展性をふまえた題材を設定することができた。このことから、このマップを活用することは、特殊学級における算数・数学科の学習を系統的に取り組むための方法として役立つものであったと考える。しかし、このマップを実際に使用してもらうためには、活用の仕方を具体的に提示する必要があると思われる。

(4) 特殊学級における算数・数学科の学習を実生活に活用するための手だてについて

ア 家庭生活で活用するための手だてについて

「家庭生活における算数・数学科の実態調査シート〈金銭〉」を活用することによって、学習する前に、家庭での様子や保護者のニーズを特殊学級担任が把握することができた。その実態を基に、家庭生活での活用を念頭においた授業の指導計画を立案できたことから、このシートの活用は、算数・数学科で学んだ内容を实生活に活用するための方法として有効であったと考える。しかし、授業と実生活を関連づけるためには、調査項目の内容を、家庭生活において必要な力がわかるようなものにする必要があると思われる。

イ 学校生活で活用するための手だてについて

「他教科・領域と算数・数学科の題材の関連マップ」を活用することによって、学習した内容を他教科・領域と関連づけて考える上で参考になったことから、教科の学習を実生活に関連づける手だてとして役立つものであると考えられる。このマップについても、学校で使用してもらうためには、活用の仕方を具体的に提示する必要があると思われる。

4 特殊学級における教科別の指導の在り方に関するまとめ

教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を踏まえた手だての構築をとおして、特殊学級における教科別の指導の在り方と実生活との関連性について、明らかになったことは、以下の5点である。

教材分析の3つの視点について

教材分析を実態把握、系統性、実生活の3つの視点から捉え、それぞれの視点に基づいた手だてを講じることによって、これまで特殊学級担任が抱えていた学習課題の設定や授業の組み立てに役立てることができると考える。

実生活に視点を おいた特殊学級の算数・数学科の指導領域と題材（学習内容）の選定について

実生活に視点を おいた算数・数学科の指導領域と題材（学習内容）を選定したことによって、実生活での活用を考えた題材の設定や個の実態に応じた年間指導計画の立案に役立てることが

できると考える。

実態把握にかかわる手だてについて

特殊学級担任にとって、算数・数学科における生徒の既習事項や理解の程度の状況を客観的に把握することができたことから、実態把握の方法として有効であった。

算数・数学科の題材間の系統性を明らかにする手だてについて

このマップを活用することで、特殊学級における算数・数学科の学習を系統的に取り組むための方法として役立つものであったと考えられる。

算数・数学科と実生活との関連性を明らかにする手だてについて

「家庭生活における算数・数学科の実態調査シート（金銭）」と「他教科・領域と算数・数学科の題材の関連マップ」は、家庭や学校生活での算数・数学科の力を活用する機会を設け、生徒の学習効果を高めることに役立てることができる手だてとして、有効であったと考えられる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は、平成17年度から平成18年度の2年間にわたり、特殊学級における算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を踏まえた手だてを構築し、特殊学級の教科別の指導の充実に役立てようと進めてきたものである。

そのために1年次では、特殊学級における算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性に関する実態調査とその分析・考察を行うとともに、教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を踏まえた基本構想の立案と手だての方向性をまとめた。

そして、2年次における本年度は、教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を踏まえた手だての構築と手だてに基づく指導実践を行い、分析・考察と研究のまとめを行った。

その結果、次のような成果が得られた。

特殊学級における教科別の指導の現状と課題を把握するための実態調査とその分析・考察

県内の小・中学校全ての特殊学級（知的・情緒）の算数・数学科を担当する教員を対象に実施した実態調査から、特殊学級における算数・数学科の指導上の困難さを把握することができ、手だての構築につながる資料が得られた。

特殊学級における教科別の指導の在り方と実生活との関連性を踏まえた手だての構築

教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を明らかにするための基本構想に基づき、実生活に関連づけた算数・数学科の指導領域と題材（学習内容）を選定し、実態把握にかかわる手だてとして、「学習到達度チェックシート〈題材毎〉」「家庭生活における実態把握調査シート〈題材毎〉」と系統性にかかわる手だてとして「特殊学級における領域内の系統性と題材間の関連マップ」、実生活にかかわる手だてとして、「他教科・領域と算数・数学科の題材の関連マップ」と「家庭生活における実態把握調査シート〈題材毎〉」を作成することができた。

教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を踏まえた手だてに基づく指導実践と分析・考察

教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を踏まえた手だて

に基づく指導実践を行った結果、それぞれの手だての有効性を確認することができた。また、研究協力校の特殊学級担任からの意見を基に、手だてに関する改善点を見だし、よりよい手だてとなるように改善することができた。

教材分析に視点を当てた算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を踏まえた手だてについてのまとめ

特殊学級における算数・数学科の教科別の指導において、教材分析に視点を当て、実生活との関連性を踏まえた手だてを活用することは、特殊学級における算数・数学科の指導の充実に役立つことが確認できた。

2 今後の課題

今回の指導実践では扱うことができなかった領域の題材（学習内容）について、さらに多くの実践をとおして手だての有効性を確かめ、検証を深めていくこと。

特殊学級における算数・数学科の指導の在り方と実生活との関連性を図るためのより具体的な手だてや題材についての検討を加えていくこと。

おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力校の先生方、県内のすべての公立小学校、中学校の特殊学級担任の皆様にご心からお礼を申し上げます。

【参考文献】

- 阿部芳久（1997）,『障害児教育 授業の設計』,日本文化科学社
- 伊藤説朗監修（2003）,『小学校算数 確かな学力を伸ばす コース別授業・少人数指導・課題選択学習 低学年編 算数の学力向上をめざした新しい指導方法の開発』,東洋館出版社
- 高橋由起子（2004）,『特殊学級担任研修ブック「生きる力」をはぐくむために』,岩手県立総合教育センター
- 手塚直樹 青山和子著（1993）,『知的障害児・者の生活と援助 援助者へのアドバイス』,一橋出版株式会社
- 藤田和弘 青山真二 熊谷恵子編著 日本版K - A B C監修（2000）,『長所活用型指導で子どもが変わる PART 2 国語・算数・遊び・日常生活のつまずきの指導』,図書文化社
- 藤田和弘 青山真二 熊谷恵子編著 日本版K - A B C監修（1998）,『長所活用型指導で子どもが変わる 認知処理様式を生かす国語・算数・作業学習の指導方略』,図書文化社
- 藤原鴻一郎（1995）,『発達に遅れがある子どもの算数・数学 数と計算編』,学習研究社
- 藤原鴻一郎（1995）,『発達に遅れがある子どもの算数・数学 量と測定編』,学習研究社
- 細村迪夫（2000）,『障害児教育の教育課程』,コレール社
- 松原隆三 宮崎直男 大南英明編著（1988）,『障害児のための かず 1』,東洋館出版社
- 宮崎直男（1985）,『養護学校の授業入門』,明治図書
- 山口薫監修（1994）,『精神薄弱実践講座 第8巻 教科別の指導』,日本文教社
- 米光みつ子（1998）,『必須言語としての数概念の指導 2 生活にひろげる』,コレール社
- 米光みつ子（1997）,『必須言語としての数概念の指導 1 基礎をきずく』,コレール社
- 愛知県立総合センター（2004）,『特殊学級（知的障害）教育課程』

群馬県総合教育センター（2005）,『すべての教員のための特別支援教育入門ガイドブック』
全日本特殊教育研究連盟（1997）,『発達の違いと教育 [特集] 教科別による学習活動の展開』
483, 日本文化科学社
全日本特殊教育研究連盟（1996）,『発達の違いと教育 [特集] 生活に生きる算数・数学』 464,
日本文化科学社

小・中学校の特殊学級における 教材分析の視点（算数・数学科）

資料 1	学習到達度チェックシート〈題材毎〉	1 ~ 18
資料 2	特殊学級における領域内の系統性と題材間の関連マップ	19
資料 3	他教科・領域と算数・数学科の題材の関連マップ	20
資料 4	家庭生活における算数・数学科の実態調査シート〈題材毎〉	21

学習到達度チェックシート＜数の基礎概念＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 具体物の有無が分かる	身近にあるものや人の名を聞いて指さすことができる			
	目の前で隠されたものを探することができる			
2 形や色の違いを認知し、弁別できる	色の異なる2つのもの（大きさは同じ）から、示された色のものを選ぶことができる			
	形の異なる2枚のもの（色は同じ）の中から、示された形のものを選ぶことができる			
3 同じもの同士の集合作りができる	色・形（大きさも含む）ともに異なる複数のものの中から示された色のものを集めることができる			
	色・形（大きさも含む）ともに異なる複数のものの中から示された形のものを集めることができる			
4 対応付けにより同等・多少を言葉や指を使い、示すことができる	具体物を使い、一対一対応させることができる（例：4枚の皿に4個のケーキ）			
	具体物を使い、一対一対応させる中で、一方に余り（不足）のある時は、数が違うことが分かる			
	具体物を使い、一対一対応させる中で、「どちらが多い、どちらが少ない、同じ」を言葉や指を使い、示すことができる			
5 示した具体物の色や形、大きさ、置かれた位置が違ってても、数は変わらないことが分かる	示した具体物（3～5程度）の色が違ってても、数は変わらないことが分かる（例：3～5個の色の違うおはじきを比較）			
	示した具体物（3～5程度）の形が違ってても、数は変わらないことが分かる（例：3～5個の形の違うおはじきを比較）			
	示した具体物（3～5程度）の大きさが違ってても、数は変わらないことが分かる（例：3～5個の大きさの違うおはじきを比較）			
	示した具体物（3～5程度）の置かれた位置が違ってても、数は変わらないことが分かる（例：3～5個の並べられたおはじきと集められた5個のおはじき）			

評価の観点 A：できる（分かる）と思われる
 B：部分的な支援があればできる（分かる）と思われる
 C：できない（分からない）と思われる

学習到達度チェックシート＜集合数・順序数＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 ものの集まりと対応して数詞が分かる	具体物を使い、1から3まで数詞「ひとつ（いっこ）、ふたつ（にこ）、みっつ（さんこ）」を順序正しく言うことができる			
	言われた数詞の数だけ具体物を取ることができる			
2 ものの集まりや数詞と対応して数字が分かる	1を「いち」、2を「に」、3を「さん」と読むことができる			
	具体物の集まりを数字で言うことができる			
	示された数字を見て具体物を取ることができる			
3 個数を数えることができる	言われた対象物のみ数えることができる（例：花びんにさした花を数える際、花のさしてない花びんまで数えない）			
	おはじき等の具体物を並べて数える際、左右どちらからでも数詞と対応させながら数えることができる			
	おはじき等の具体物を並べて数える際、目で追いながら数詞と対応させながら数えることができる			
	自動車等、動いているものに数詞を対応させながら数えることができる			
4 数の大小を比較できる	音の回数（例：手を叩く）に数詞を対応させて数えることができる			
	おはじき等の具体物を使い、2ずつ（5ずつ、10ずつ）数えることができる			
	一対一対応により、同等・多少が分かる			
5 数系列が理解できる	複数対複数対応により、同等・多少が分かる（例：二つの水槽に入った魚の数の同等・多少が分かる）			
	1～5までの数を順番通りに並べることができる			
	順番や位置を表すのに数を用いることができる			
	1～10までの数を順番通りに並べることができる			
	数直線上に1～10までの数を示すことができる			
	数直線上に原点としての「0」を示すことができる			
6 数の合成・分解ができる	20までの数を順番通りに並べることができる			
	100まで及び100以上の数を順番通りに並べることができる			
	タイル等の具体物を使い、5までの数の合成・分解ができる			
	タイル等の具体物を使い、6～9の数の合成・分解ができる			
タイル等の具体物を使い、10の合成の分解ができる	10以上の数は10の位の数と1の位の数を分けてとらえることができる（例：15は10と5）			

評価の観点 A：できる（分かる）と思われる
 B：部分的な支援があればできる（分かる）と思われる
 C：できない（分からない）と思われる

学習到達度チェックシート＜加法＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 加法の意味が分かる	「みんなでいくつ」や「合わせていくつ」の意味が分かる			
	二つの数を合わせると、元の数より増えることが分かる			
2 +、= の記号の意味が分かる（数式の理解）	「5と2を合わせる」は、「5+2」と表すことが分かる			
	「5+2」の結果を表すためには、「=」をつけ、「5+2=」と表すことが分かる			
	「5+2=」の式を横書き、縦書きで表すことが分かる			
3 具体物や絵・写真等を使い、足し算ができる	答えが5までの足し算ができる			
	答えが10までの足し算ができる			
4 数字を用いた足し算ができる	答えが5までの足し算ができる			
	答えが10までの足し算ができる			
5 繰り上がりのある足し算ができる	1位数+1位数の計算ができる			
	2位数+1位数の計算ができる			
	2位数+2位数の計算ができる			
6 加法を実生活に活用することができる	実生活の中で加法が使われていることが分かる			
	金銭や時刻・時間、長さ、重さ等において加法を用いることができる			

学習到達度チェックシート＜減法＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 減法の意味が分かる	「残りはいくつ」や「引いたらいくつ」の意味が分かる			
	元の数からある数を引いたら、元数は小さくなることが分かる			
2 -、= の記号の意味が分かる（数式の理解）	「5から2を引く」を「5-2」と表すことができる			
	「5-2」の結果を表すためには、「=」をつけ、「5-2=」と表すことができる			
	「5-2=」の式を横書き、縦書きで表すことができる			
3 具体物や絵・写真等を使って、引き算ができる	答えが5までの引き算ができる			
	答えが10までの引き算ができる			
4 数字を用いて引き算ができる	答えが5までの引き算ができる			
	答えが10までの引き算ができる			
5 繰り下がりのある足し算ができる	2位数-1位数の計算ができる（例：32-6）			
	2位数-2位数の計算ができる（例：51-13）			
	3位数-3位数、及びそれ以上の計算ができる			
6 減法を実生活に活用することができる	実生活の中で減法が用いられていることが分かる			
	金銭や時刻・時間、長さ、重さ等において減法を用いることができる			

評価の観点 A：できる（分かる）と思われる
 B：部分的な支援があればできる（分かる）と思われる
 C：できない（分からない）と思われる

学習到達度チェックシート＜乗法＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 具体物を使い、2ずつ、5ずつ数えることができる（乗法の意味が分かる）	2個のおはじきを5組並べることができる			
	のおはじきを2とび（2個、4個～10個）で数えることができる			
	5個のおはじきを4組並べることができる			
2 ×、= の記号の意味が分かる（数式の理解）	「みかんが3個ずつ、2皿あります」を、「3×2」と表すことができる（3かける2と読める）			
	「3×2」の結果を表すためには、「=」をつけ、「3×2=」と表すことができる（3かける2はと読める）			
	「3×2=」の式を横書きで表すことができる			
3 二、五の段の乗法九九が分かる	二の段が分かる（動物の耳や鳥の足等を使い、積は2とびで求められることが分かる）			
	二の段を唱えることができる			
	五の段が分かる（手や桜の花びら等を使い、積は5とびで求められることが分かる）			
4 乗法九九が分かる	三、四、六、七、八、九の段が分かる（三つ葉のクローバー、自動車のタイヤ、昆虫の足、七星てんとう虫、たこの足、野球のチーム等を使いそれぞれの積が求められることが分かる）			
	三、四、六、七、八、九の段を唱えることができる			
5 被乗数が、2位数以上の計算ができる	10倍、100倍した数や何十倍、何百倍した数の計算ができる（立式で表し計算できる）			
	2位数以上の計算ができる（2位数×1位数、3位数×1位数、2位数×2位数、3位数×2位数）			
6 乗法を実生活に活用することができる	ある集まりの数を速く、正しく数えるために乗法の考え方が使われていることが分かる（例：学校の教材や給食用の食器類を2ずつ、3ずつ数える）			
	買い物、トランプゲーム等、いろいろな場面で乗法を使い、数を数えることができる（例：袋に同数ずつ入った野菜や果物をいくつかまとめて数える）			

評価の観点 A：できる（分かる）と思われる
 B：部分的な支援があればできる（分かる）と思われる
 C：できない（分からない）と思われる

学習到達度チェックシート＜除法＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 除法の意味が分かる	「みんなで分ける」や「同じだけ数(量)分ける」の意味が分かる			
	4個のおはじきを2個ずつに分けることができる			
	10個のおはじきを5個ずつに分けることができる			
2 ÷、=の記号の意味が分かる(数式の理解)	「みかんが4個あります、2人で分けると」を、「 $4 \div 2$ 」と表すことができる(「4わる2」と読める)			
	「 $4 \div 2$ 」の結果を表すためには、「=」をつけ、「 $4 \div 2 =$ 」と表すことができる(「4わる2は」と読める)			
3 立式し、答えを求めることができる	「 $4 \div 2 =$ 」の式を立式で書き表すことができる			
	わり算を計算するのにかけ算九九を使い、答えが求められることが分かる			
	余りのある計算があることが分かる(例： $7 \div 3 = 2$ 余り1)			
	2位数÷1位数のわり算(余りなし)を立式し、計算できる			
	2位数以上の計算(余りなし)ができる(2位数÷2位数、3位数÷1位数、3位数÷2位数)			
6 除法を実生活に活用することができる	あるものを学級の人数に分ける際、わり算が使われていることが分かる			
	買いたいものを買うのに、毎日お金を貯めると何日かかるかや1冊の本を1ヶ月で読むのに何日かかるか等を計算によって求めることができる			

評価の観点 A：できる(分かる)と思われる
 B：部分的な支援があればできる(分かる)と思われる
 C：できない(分からない)と思われる

学習到達度チェックシート＜金銭＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 お金の種類を弁別することができる	1円、5円、10円、50円、100円、500円をそれぞれの金種に分けることができる			
	1,000円、2,000円、5,000円、10,000円をそれぞれの金種に分けることができる			
2 硬貨、紙幣の名称を言うことができる	1円、5円、10円、50円、100円、500円の名称を言うことができる			
	1,000円、2,000円、5,000円、10,000円の名称を言うことができる			
3 単一硬貨や紙幣を10枚まで数えることができる	1円硬貨10枚までの金額を数えることができる			
	10円硬貨10枚までの金額を数えることができる			
	100円硬貨10枚までの金額を数えることができる			
	1,000円紙幣10枚までの金額を数えることができる			
4 各硬貨間、及び紙幣間の等価交換が分かる	10円と1円10枚、100円と10円10枚、1,000円と100円10枚の等価関係が分かる			
	5円と1円5枚、50円と10円5枚、500円と100円5枚の等価関係が分かる			
	10円と5円2枚、100円と50円2枚、1,000円と500円2枚の等価関係が分かる			
	5,000円と1,000円5枚、10,000円と1,000円10枚の等価関係が分かる			
5 品物の値段より、大きなお金を支払って買い物することができる	100円以下の品物に100円を支払うことができる			
	500円以下の品物に500円を支払うことができる			
	1,000円以下の品物に1,000円を支払うことができる			
	1,000円より高い品物に対して、適当な枚数の紙幣や硬貨を支払うことができる			
6 品物の値段に見合ったお金(硬貨や紙幣を組み合わせる)を支払うことができる	2種類の硬貨を組み合わせることで支払うことができる(例：23円)			
	3種類の硬貨を組み合わせることで支払うことができる(例：512円)			
	4種類以上の硬貨を組み合わせることで支払うことができる(例：876円)			
	硬貨と紙幣を組み合わせることで支払うことができる(例：1,734円)			
7 割引や値引きされた金額が分かる	割引や値引きによって、品物が定価より安く買えることが分かる			
	100円の半額が50円であることが分かる			
	100円の2割(20%)、3割(30%)引きの値段が分かる			
8 小遣い帳をつけることができる	買い物後、レシートを見て、自分がいくらお金を支払ったのかが分かる			
	レシートのお釣りの表示金額と実際のお釣りの金額が同じであることが分かる			
	こづかい帳に買った品物、支払ったお金、お釣りをそれぞれ記入することができる			

評価の観点 A：できる(分かる)と思われる
 B：部分的な支援があればできる(分かる)と思われる
 C：できない(分からない)と思われる

学習到達度チェックシート＜時間・時刻の基礎概念＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 朝・昼・夜の違いが分かる	朝日の絵、太陽が空高いところにある絵、月や星のある絵等を見て、朝、昼、夜に分けることができる			
	の絵を朝を基準にして昼、夜の順番に並べることができる			
2 「朝早い」、「夜遅い」等の言葉の意味が分かる	「今日の登校は早かったね」や「みんなより遅れているよ」といった日常での会話の意味が分かる			
	「今日の登校は早かったね」や「みんなより遅れているよ」といった言葉を日常での会話で使うことができる			
3 絵や写真で示された一日の生活の流れを順番に並べることができる	朝起きてから就寝までの間の様々な出来事を思い出すことができる（順序性はなくてよい）			
	起床から登校、学校での生活、帰宅後の生活、就寝までの各出来事を絵や写真にしたものを一日の流れに沿って順序よく並べることができる			

評価の観点 A：できる（分かる）と思われる
 B：部分的な支援があればできる（分かる）と思われる
 C：できない（分からない）と思われる

学習到達度チェックシート＜時刻・時間＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 時報が分かる	学校のチャイムやお昼に流れるメロディーが時刻を知らせるものであることが分かる			
	始業と終業のチャイムの違いが分かる			
2 時計の長針と短針、秒針の違いが分かる	時計には長針と短針、秒針があることが分かる			
	長針と短針、秒針の違いが分かる			
3 時計を読むことができる	数詞（1から12）がわかり、数字（1から12）を読むことができる			
	模型時計によって示された時刻の針を見て、何の時間が分かる（例：12時＝お昼の時間、6時＝テレビを見る時間）			
	模型時計によって示された時刻を読むことができる（例：12時、3時、6時等、わかりやすい時間や子どもの生活と関連した時間にする）			
	模型時計によって示された時刻（時や時半）が分かる			
	言われた時刻を模型時計の長針、短針を操作し表すことができる			
4 時前、時過ぎが分かる	模型時計で示された時刻の5分前、5分後の時刻を表すことができる			
	模型時計で示された時刻の15分前、15分後の時刻を表すことができる			
	模型時計で示された時刻の30分前、30分後の時刻を表すことができる			
	模型時計で示された時刻の45分前、45分後の時刻を表すことができる			
	模型時計で示された時刻の1時間前、1時間後の時刻を表すことができる			
5 午前と午後の違いが分かる	お昼（12時）より前が午前、あとが午後であることが分かる			
	午後1時が13時であることが理解できる（同様に午後2時以降についても理解できる）			
	24時＝0時であることが分かる			
	模型時計によって示された時刻（例：10時と22時）は、それぞれ午前と午後があることが分かる			
6 時間の単位関係が分かる	1時間＝60分が分かる			
	1分＝60秒が分かる			
	1日＝24時間が分かる			
7 時間の計算ができる	1時間以内の加減の計算ができる（例：9時から9時30分までが作業の時間です。作業時間は何分間ですか）			
	1時間以上の加減の計算ができる（例：9時から11時30分までが作業の時間です。作業時間は何時間何分ですか）			
8 時刻・時間を実生活に活用することができる	時計の種類が違って時刻を読むことができる			
	時計を見ながら決められた時刻に遅れないように出発することができる			
	バスや電車等の時刻表を読み、活用できる			

評価の観点 A：できる（分かる）と思われる
 B：部分的な支援があればできる（分かる）と思われる
 C：できない（分からない）と思われる

学習到達度チェックシート＜暦の基礎概念＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 昨日・今日・明日の違いが分かる	昨日、今日、明日という言葉の意味を給食の献立や学習予定等と結びつけて理解することができる			
	昨日、今日、明日という言葉を使い、話ができる			
2 今日は何月何日かが分かる	カレンダーをみて、今日の日付を言うことができる			
	昨日、明日の日付を言うことができる			
3 一週間の曜日が分かる	一週間の曜日を言うことができる（順不同）			
	一週間の曜日を日曜日から順序正しく言うことができる			
	今日、昨日、明日の曜日を正しく言うことができる			
4 自分の誕生日が分かる	自分の誕生日を言うことができる			
	自分の誕生日をカレンダーに示すことができる			
	友達や先生の誕生日をカレンダーの中から探すことができる			

学習到達度チェックシート＜暦＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 一週間 = 7日が分かる	カレンダーの中から今週に相当する週を示すことができる			
	一週間は何日で構成されているのかを知るためにカレンダーを使い実際に数えることができる			
2 来週・今週・先週の言葉の意味が分かる	先週、今週、来週という言葉を通り手予定表等と関連付けながら理解することができる			
	先週、今週、来週という言葉を使い話ができる			
3 休日や祝祭日が分かる	カレンダーの中から休日や祝祭日の日を示すことができる			
	それぞれの祝祭日の日の意味が分かる			
4 1年 = 12ヶ月 = 365(366)日であることが分かる	月には12ヶ月あることが分かる			
	月によって日数が違うことが分かる			
5 年が変わると西暦や年号が変わることが分かる	去年・今年・来年の言葉の意味が分かる			
	今年の年を西暦や年号で言うことができる			
	来年を西暦や年号で言うことができる			
6 暦を実生活に活用することができる	カレンダーに運動会や文化祭、卒業式といった学校行事を記入することができる			
	運動会や文化祭、卒業式まで、あと何ヶ月、何週間何日あるのかが分かる			
	一週間又は一ヶ月の個人の予定表をつくることができる			

評価の観点 A：できる（分かる）と思われる
 B：部分的な支援があればできる（分かる）と思われる
 C：できない（分からない）と思われる

学習到達度チェックシート＜長さの基礎概念＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 長さを意識できる	長さのあるものに関心を持ち、手にすることができる			
	手の届かない所にあるものを棒等を使い、たぐりよせることができる			
2 長さに関する用語が理解できる	「長い」「短い」「高い」「低い」「遠い」「近い」などの「長さ」に関する言葉の意味が分かる			
	「長い」「短い」「高い」「低い」「遠い」「近い」などの「長さ」に関する言葉を日常生活の中で使うことができる			
3 長さが同じであれば、色や形、大きさ、置かれた位置が違っていても、長さは変わらないことが分かる	二つの同じ長さの具体物（例：鉛筆）は、色が違っていても、長さは変わらないことが分かる			
	二つの同じ長さの具体物（例：鉛筆）は、形が違っていても、長さは変わらないことが分かる			
	二つの同じ長さの具体物（例：鉛筆）は、大きさが違っていても、長さは変わらないことが分かる			
	二つの同じ長さの具体物（例：鉛筆）は、置かれた位置が違っていても、長さは変わらないことが分かる			

評価の観点 A：できる（分かる）と思われる
 B：部分的な支援があればできる（分かる）と思われる
 C：できない（分からない）と思われる

学習到達度チェックシート<長さ>

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 直感による長短を比べることができる	具体物を見て、どちらが長いかを直感的に比べ、見分けることができる			
	目の前にないものをイメージして、どちらが長いかを答えることができる（例：キリンの首とクマの首の比較）			
2 直接比較で長さを比べることができる	比較したい物同士を基準線に揃えることができる（例：鉛筆の下の部分を揃えて並べる）			
	基準線を明確にそろえ、末端で長さを比べる（どちらが長い・短い、または同じ）ことができる			
3 間接比較で長さを比べることができる	量を移動できないものの長さを測るには、媒介物が必要であることが分かる			
	比べようとする両者のどちらか一方と等しい長さの媒介物を使い、「より長い・短い」を比べることができる			
4 一定の長さのものを使い具体物の長さを測ることができる	身近な物（鉛筆やノート）を使い、「いくつ分」というように測ることができる			
	身近な物（鉛筆やノート）を使い、二つの物の長さを比べることができる			
5 目盛りのついたものさし（30cm）を使い、具体物の長さを測定できる	ものさしにはcmとmmの単位があることが分かる			
	ものさしは、目盛りのある側を対象物の側に置くことが分かる			
	測定する物の左端にもものさしの目盛り0を合わせることができる			
	測定する物ともものさしを平行に揃えることができる（測定する物がものさしから離れないようにする）			
6 1cmは10mmであることが分かる	mmがcmよりも小さい単位であることが分かる			
	1mmの10倍が1cmであることが分かる			
7 1mは100cmであることが分かる	cmよりも大きい単位がmであることが分かる			
	1cmの100倍が1mであることが分かる			
8 2cm5mmを25mmと読むことができる	2cm5mmを25mmと読むことができる			
	25mmを2cm5mmと読むことができる			
9 長さを実生活に活用することができる	1mのものさしを使い、具体物の長さを測定することができる			
	身長計を使い、身長を測定することができる			
	巻き尺を使い具体的な長さを測定することができる			
	指定された長さにものを切ったり分けたりすることができる			
	家から学校までのおおよその距離が分かる			

評価の観点 A：できる（分かる）と思われる
 B：部分的な支援があればできる（分かる）と思われる
 C：できない（分からない）と思われる

学習到達度チェックシート<重さの基礎概念>

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 重さを意識できる	具体物を手にし、重さを体感できる			
	重さによって、持つ（運ぶ）ことができるものと持てない（運べない）ものがあることが分かる（例：二つの同じ大きさ、色、形の箱（一方には砂袋を入れる）を運ぶ）			
2 重さに関する用語を理解することができる	「重い」、「軽い」という言葉の持つ意味の違いを理解できる			
	「重い」、「軽い」という言葉を日常生活の中で使うことができる			
3 重さが同じであれば、色や形、大きさが違っていても、重さは変わらないことが分かる	二つの同じ重さの具体物は、色が違っていても、重さは変わらないことが分かる			
	二つの同じ重さの具体物は、形が違っていても、重さは変わらないことが分かる			
	二つの同じ重さの具体物は、大きさが違っていても、重さは変わらないことが分かる			

学習到達度チェックシート<重さ>

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 直感による重さを比べることができる	具体物を見て、どちらが重いかを直感的に見分けることができる（大きい物は重い、小さい物は軽い）			
	目の前にないものをイメージして、どちらが重いかを答えることができる（例：自転車と自動車）			
2 直接比較で重さを比べることができる	重さを比べる物一つずつ、両手に持ち、どちらが重い分かる			
	見た目が大きくても、軽いものがあることが分かる（例：スポンジと文鎮の比較）			
3 間接比較で重さを比べることができる	目盛りのない（手作りの）てんびんの両側に具体物をのせ、どちらが重いかを比べることができる			
	目盛りのない（手作りの）てんびんの片方に具体物をのせ、その重さと釣り合うように重りを調節してのせることができる（例：同じ大きさと重さの粘土を使い、具体物が粘土何個分の重さであるかがわかる）			
4 重さの単位がgやkgであることが分かる	重さの単位がgやkgであることが分かる			
	秤の目盛りを読み取ることができる			
	gやkgを使い重さを表すことができる			
5 1kgが1000gであることが分かる	kgがgよりも大きい単位であることが分かる			
	1gが1000個集まると、1kgになることが分かる			
6 1kg500gを1500gと読みかえることができる	1kg500gを1500gと読みかえることができる			
	1500gを1kg500gと読みかえることができる			
8 重さを実生活に活用することができる	中身の重さ（正味）は容器の重さを引いたものであると分かる			
	中身の重さ（正味）は容器の重さを引いたものであると分かる			
8 重さを実生活に活用することができる	自動上皿天秤を使い具体物の重さを測定することができる			
	ばね秤を使い具体物の重さを測定することができる			
	台秤を使い具体物の重さを測定することができる			
	身近な物の重さや自分の体重が分かる			
	指定された重さにものをわけることができる			

評価の観点 A：できる（分かる）と思われる
 B：部分的な支援があればできる（分かる）と思われる
 C：できない（分からない）と思われる

学習到達度チェックシート＜広さの基礎概念＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 広さを意識できる	広い部屋と狭い部屋を体感することで広さを意識できる (例：狭い部屋に大勢の人数で窮屈感を体感する。同じ人数で体育館のように広い部屋で解放された感じを体感する)			
	広さには、面積だけではなく、幅の広さもあることを意識できる (例：ドアの幅を広げたり、狭くしたりして広さを体感する)			
2 広さに関する用語を理解することができる	「広い」「狭い」のように「広さ」に関する言葉の意味が分かる			
	「広い」「狭い」のように「広さ」に関する言葉を日常生活の中で使うことができる			

学習到達度チェックシート＜広さ＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 直感による広さの比較ができる	具体的な場所等を実際に見て、広い・狭いを直感的に見分けることができる			
	目の前にないものをイメージして、どちらが広いかを答えることができる(例：自分の部屋と教室)			
2 直接比較で広さを比べることができる	二つのものを重ねると広さを比べることができる			
	二つのものを重ねて大きさを比べることができる			
3 間接比較で広さを比べることができる	比べるものの片方と同じ広さの紙を用意し、それを重ねることで広さを比べることができる			
	一定の広さの紙を用意し、その紙何枚分という比較で広さを比べることができる			
4 形が変わっても広さは変わらないことが分かる	折り紙を四等分にした四枚の紙を横に並べたものと元の折り紙の広さは変わらないことが分かる			
	折り紙を様々な形に切ったもので、別の形を作っても元の折り紙の広さと変わらないことが分かる			
5 1cm ² が分かる	縦が1cm、横が1cmの大きさを1平方センチメートルと表すことができる			
	1平方センチメートルを「1cm ² 」と表すことができる			
	1cm ² のおおよその大きさを紙の上に表すことができる			
6 1m ² が分かる	縦が1m、横が1mの大きさを「1平方メートル」と表すことができる			
	1平方センチメートルを「1m ² 」と表すことができる			
	1m ² のおおよその大きさを示すことができる			
7 一定の広さのものを方眼紙を使い表すことができる	1cm方眼紙を使い、示された面積を表すことができる			
	1m ² の板や紙を使い、教室等の面積を表すことができる			
8 正方形・長方形の面積の計算方法が分かる	面積を求めるには、「縦の長さ×横の長さ」を使い求めることができることが分かる			
	面積を求める公式を使い、計算することができる			
9 広さを実生活に活用することができる	1畳の広さを示すことができる			
	自分の部屋が何畳であるか分かる			
	様々な活動に必要な広さが分かる(例：布団の大きさは1畳くらい、バスケットコートはバレーコートよりも広い)			

評価の観点 A：できる(分かる)と思われる
 B：部分的な支援があればできる(分かる)と思われる
 C：できない(分からない)と思われる

学習到達度チェックシート＜かさの基礎概念＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 かさを意識できる	手に水をすくうなどして、かさを意識することができる			
	ジュースがたくさん入っているコップを選ぶことができる			
2 かさに関する用語を理解することができる	「多い・少ない・同じ」「いっぱい・たくさん・半分・少し・ちょっと」「からっぽ・いっぱい」などの言葉の意味が分かる			
	「コップ1杯」「バケツに半分」等、かさに関する言葉を日常生活の中で使うことができる			

学習到達度チェックシート＜かさ＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 直接比較で、かさを比べることができる	同量の水を容器の幅が同じものに入れたとき、同じ高さになることが分かる			
	同じ幅の容器に量の異なる水を入れたとき、水面の高い方が量が多いことが分かる			
2 間接比較で、かさを比べることができる	形や大きさが異なる容器に入っている水量を、別の容器(基準となる容器)に移し替えて、どちらが多いか、少ないかを比べることができる			
3 一定の大きさの容器を基準にして、かさを量ることができる	コップ等の一定の大きさの容器を使い、コップ何杯分などと表すことができる			
	基準の量が等しければ、どんな大きさや形の容器に入れても同じであることが分かる			
4 かさと同じであれば、容器の形、大きさが違っていても、かさは変わらないことが分かる	同じ形、大きさの二つの容器に入った同量の水のかさが同じであることが分かる			
	形、大きさの異なる二つの容器に入った同量の水のかさが同じであることが分かる			
5 100mlの容器を使い計量できる	mlの読み方、書き方が分かる			
	100mlの容器、2杯分で200mlになることが分かる			
	100mlの容器を使い身近なものを計量できる			
6 メッシリンドーやピーカー等の目盛りを見て計量できる	メッシリンドー、ピーカーの名前と用途が分かる			
	メッシリンドー、ピーカーの目盛りを読むことができる			
	メッシリンドーやピーカーを使い、正しく計量することができる			
7 かさの簡単な計算ができる	100mlの水と200mlの水を加えると、300mlになることを立式し、(100ml+200ml=300ml)計算できる			
	300mlの水から200mlの水を除くと、100mlであることを立式し、(300ml-200ml=100ml)計算できる			
8 かさの単位関係を理解することができる	500mlのペットボトルを2本合わせると1000mlになることが分かる			
	1000mlと1ℓが同じであることが分かる			
	2300mlを2,3ℓと表すことができる			
9 かさを実生活に活用することができる	牛乳1本は200ml、缶ジュースは350mlなど、日常生活でよく見かけるものの、かさが分かる			
	計量カップや計量スプーンを使うことができる			

評価 A：できる(分かる)と思われる
 B：部分的な支援があればできる(分かる)と思われる
 C：できない(分からない)と思われる

学習到達度チェックシート＜図形の基礎概念＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 形の弁別・類別ができる	型はめ教材やペグボード、絵合わせ教材を使い、同じ形をあてはめることができる			
	身近にある様々な形の中から同じ形のものを集めることができる			
	で集めた形を、形の特徴によって四角いもの、丸いもの、三角のものに分けることができる			
2 基本的な形の名称が分かる	「四角」を「しかく」、「丸」を「まる」、「三角」を「さんかく」という名称で言うことができる			
	示された形（四角、丸、三角）を名称で答えたり、指でさすことができる			

学習到達度チェックシート＜形＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 形の性質を理解することができる（四角形）	折り紙や教科書・ノート等を使い、正方形と長方形の違いが分かる			
	「ましかく」、「ながしかく」という言葉の意味が分かる			
	四角形には、4本の真っ直ぐな線と4つの角があることが分かる			
	四角形の種類には、ひし形、平行四辺形、台形があることが分かる			
2 形の性質を理解することができる（三角形）	三角形には、3本の真っ直ぐな線と3つの角があることが分かる			
	直角の意味が分かる			
	三角形の種類には、正三角形、直角三角形、二等辺三角形があることが分かる			
3 形の性質を理解することができる（円）	こま等を使い、円の中心を見つけることができる			
	円を中心点から二つに折ると形が重なることが分かる（半円）			
4 身近にある形は、いろいろな形を組み合わせでできていることが分かる	積み木やブロック等を使い、身近にあるものの形と同じような形に組み合わせることができる（例：家、車、船の形等）			
	同じ大きさの立方体の積み木やブロック等を使い、示された形を作ることができる			

評価 A：できる（分かる）と思われる
 B：部分的な支援があればできる（分かる）と思われる
 C：できない（分からない）と思われる

学習到達度チェックシート＜位置・方向＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 位置や方向が直感的に分かる	棚の上の段、下の段が分かる			
	上下、左右の違いが分かる			
	具体物などの向きの違いが分かる			
2 自分を基準にして、上下、前後、左右が分かる	自分の体の前と後ろが分かる			
	自分より前の人や後ろの人が分かる			
	自分の右と左が分かり、自分でその方向を示すことができる			
3 ある基準からの位置関係が分かる	基準になるものから見た、上にあるものと下にあるものが分かる			
	上下、左右の言葉を使い、位置を表すことができる			
4 四方位が分かる	太陽の位置などから、東西南北の見当を付けることができる			
	方位磁針の見方、使い方が分かる			
5 位置を実生活に活用することができる	上下、前後の関係が分かり、生活の中で使うことができる			
	下駄箱や棚の上下の段を目的に応じて使い分けすることができる			
	前から 番目、後ろから 番目という指示で並ぶことができる			

学習到達度チェックシート＜形の合成・分解＞

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 形を組み合わせで別の形を作ることができる【合成】	同じ大きさの正方形を組み合わせると長方形になることが分かる			
	同じ大きさの半円を二つ組み合わせると円になることが分かる			
	同じ大きさの三角形を二つ組み合わせると四角形ができることが分かる			
2 形を折る、切るなどして別の形にすることができる【分解】	正方形（折り紙）を横半分に折ると長方形ができることが分かる			
	円を中心点から二つに折ると半円ができることが分かる			
	正方形（折り紙）を斜め半分に折ると三角形ができることが分かる			

評価 A：自らの判断で正しく行うことができる
 B：部分的な支援があれば正しく行うことができる
 C：多くの場面で支援を必要とする

学習到達度チェックシート<作図>

主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 フリーハンドで基本的な形をかきすることができる	円の特徴をとらえ、フリーハンドでかくことができる			
	四角形の特徴をとらえ、フリーハンドでかくことができる			
	三角形の特徴をとらえ、フリーハンドでかくことができる			
2 身近にある形を使い、形に沿った線を引くことができる	箱等を使い、外側の形(四角形)を写し取ることができる			
	コップ等を使い、外側の形(円)を写し取ることができる			
3 直線定規や三角定規を使い、様々な線を引くことができる	紙を縦に半分に折った線に定規を当て、ずれないように固定し、縦の直線を引くことができる			
	紙を横に半分に折った線に定規を当て、ずれないように固定し、ながら、横の直線を引くことができる			
	紙を斜め半分に折った線に定規を当て、ずれないように固定しながら、斜めの直線を引くことができる			
	正方形(折り紙)の対角に定規をずれないように合わせ、対角線を引くことができる			
	長方形の対角に定規をずれないように合わせ、対角線を引くことができる			
	円の中点を示した紙を使い、中点に定規をずれないように合わせ、直線を引くことができる			
4 定規やコンパスを使い、基本的な図形をかきすることができる	四つ折りした紙の中心にできる直角に、三角定規の直角をずれないように合わせ、直角をかきすることができる			
	三角定規を2枚使い、平行な線を引くことができる			
	定規を使い、四角形、三角形をかきすることができる			
5 図形を実生活に活用することができる	コンパスを使い、円をかきすることができる			
	正三角形、二等辺三角形をコンパスを使い作図することができる			
	三角や四角の形に紙を切ることができる			
5 図形を実生活に活用することができる	掃除当番表など円を使った表で作成できる			
	形を組み合わせて、誕生会やその他学校行事で使用する装飾物等を制作することができる			

評価 A：自らの判断で正しく行うことができる
 B：部分的な支援があれば正しく行うことができる
 C：多くの場面で支援を必要である

学習到達度チェック表<表とグラフの基礎概念>

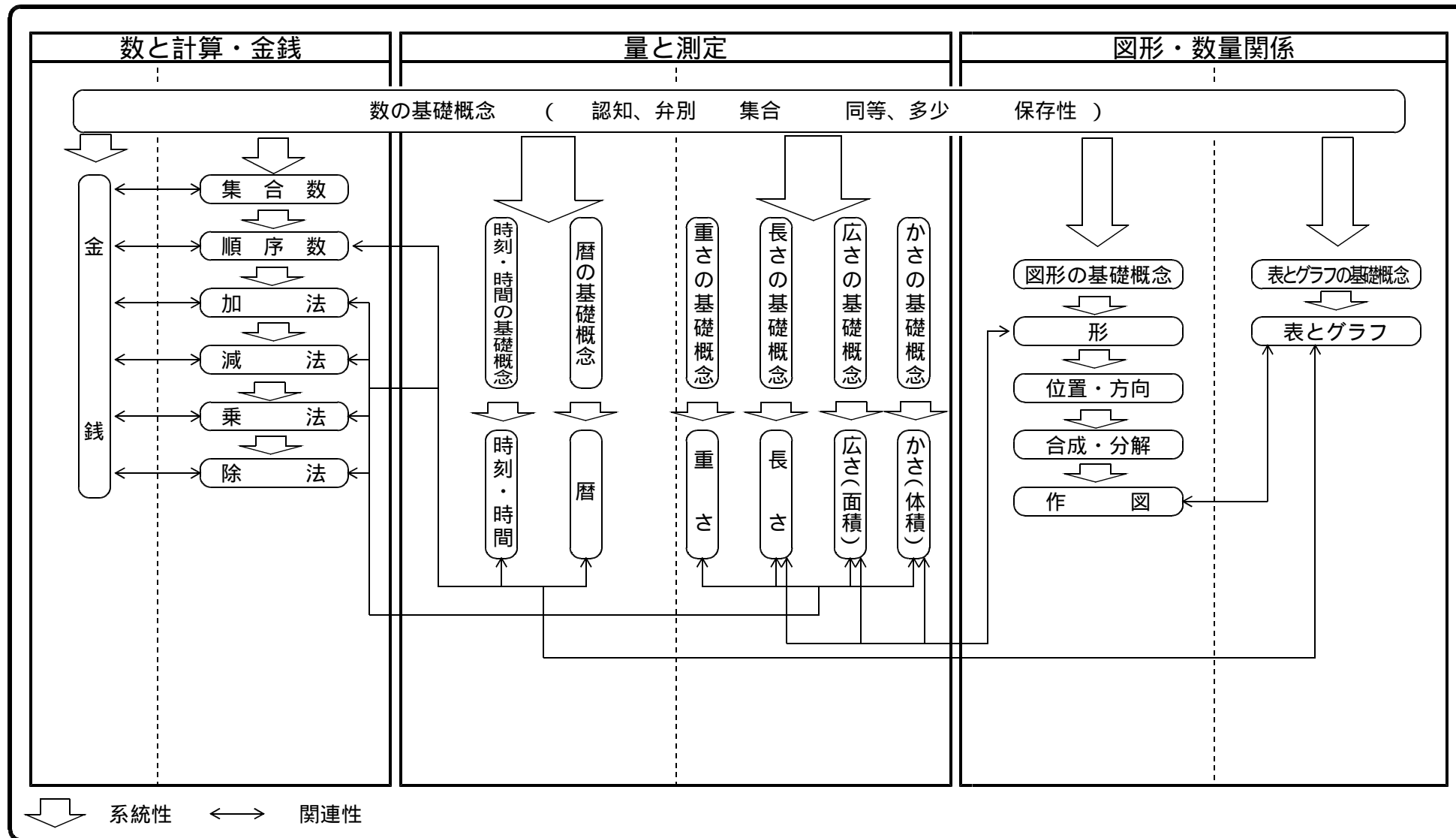
主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 表が分かる	時間割りが表であることが分かる			
	時間割りを読み取ることができる(例：月曜日の2時間目は算数・数学です)			
	身近にあるいろいろな表を見つけることができる			
2 グラフが分かる	身体測定の身長や体重の数値の変化を表したものを図に表したものがグラフであることが分かる			
	グラフを読み取ることができる(例：4月の身長は、110cmです)			
	教科書や資料集の中から様々なグラフを見つけることができる			

学習到達度チェック表<表とグラフ>

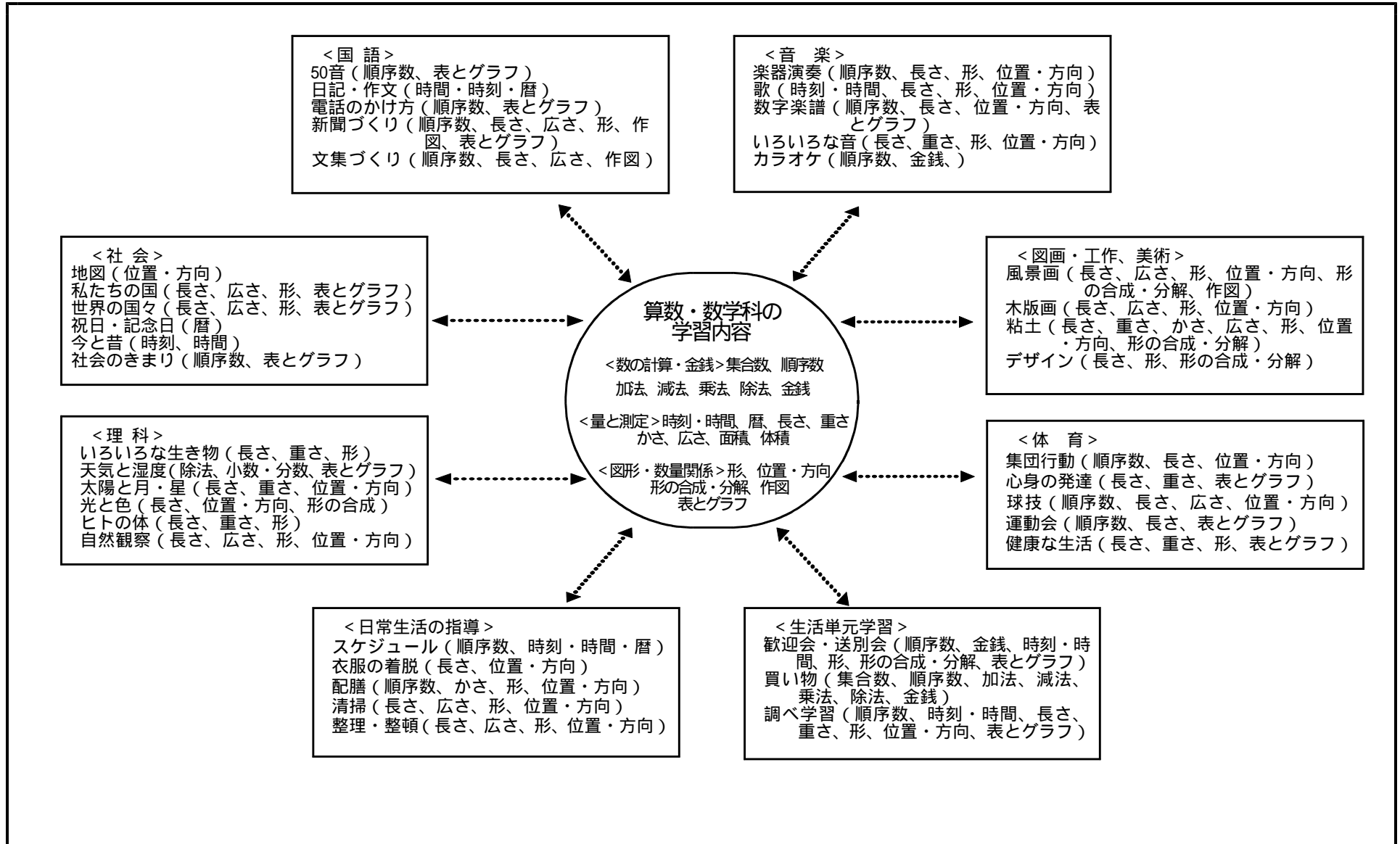
主なねらい	具体的な指導目標	A	B	C
1 二つの変化する数量関係を \times などの表で表し、数の多少を比べることができる	二つの変化する数量関係(例：10回のジャンケンゲームの結果)を \times の記号等で記入したり、シールを貼ったりすることができる			
	の結果を表にすることができる			
	で作成した表から、勝敗の多少を比べることができる			
2 棒グラフから数量の大小関係を読み取ることができる	棒の長さが表しているものが分かる(横軸の読み取り)			
	棒の長さの値を読み取ることができる(縦軸の読み取り)			
	棒の長さを比較して、一番数値が大きい項目、少ない項目などを読み取ることができる			
3 測定した値を棒グラフで表すことができる	グラフの枠(縦軸、横軸、目盛り等)を記入することができる			
	適切な位置に測定した値を表すことができる			
4 折れ線グラフから数量の変化を読み取ることができる	横軸の変化が何を表しているのか読み取ることができる			
	縦軸の変化が何を表しているのか読み取ることができる			
	数値の最も高い点や低い点を読み取ることができる			
	折れ線の傾き具合から、数値等の傾向を読み取ることができる(だんだん増えている、減っている等)			
5 測定した数量を折れ線グラフで表すことができる	測定した数値を正しい位置に記入することができる			
	数値と数値を線で結ぶことができる			
6 表とグラフを実生活に活用することができる	時間割を作ることができる			
	時刻表を読み取ることができる			

評価 A：自らの判断で正しく行うことができる
 B：部分的な支援があれば正しく行うことができる
 C：多くの場面で支援を必要である

特殊学級における領域内の系統性と題材間の関連マップ



他教科・領域の題材と算数・数学科の題材の関連マップ



家庭生活における算数・数学科の実態調査シート<題材毎>

児童・生徒名 [

]

<数と計算及び金銭について>

1	家族にみかんを一つずつ配ることができる	は い・いいえ
2	二つの入れ物に入っている果物等の数がどちらが多いかがわかる(5個程度)	は い・いいえ
3	「みかんを3つ持ってきて」と言ったときに、3つ持ってくることができる	は い・いいえ
4	「みかんを3つずつ配って」と言ったときに、配ることができる	は い・いいえ
5	個数の違うみかんのかごを見て、どちらが多く入っているかわかる	は い・いいえ
6	二つのかごに入っているみかんの合計を答えることができる	は い・いいえ
7	自動販売機を利用できる	は い・いいえ
8	一人で買い物ができる(簡単なお使いができる)	は い・いいえ
9	いくらまでの買い物ができる	円
10	持たせるお金の種類は何ですか	硬貨・紙幣・両方
11	小遣いをあげている	は い・いいえ
12	小遣いの金額はどれくらいですか	円
13	欲しいものがあつた時、小遣いを貯めて買うことができる	は い・いいえ
14	こづかい帳をつけている	は い・いいえ

<時間・暦について>

1	家を出る時間が何時何分かを言うことができる	は い・いいえ
2	自分で時計を見て行動することができる	は い・いいえ
3	1分、5分、10分のおおよその時間の感覚がわかる	は い・いいえ
4	自分の時計を持っている	は い・いいえ
5	タイマーをセットして使うことができる(目覚まし時計、電子レンジ等)	は い・いいえ
6	昨日、今日、明日がわかる	は い・いいえ
7	おととい、あさつてがわかる	は い・いいえ
8	今日の曜日がわかる	は い・いいえ
9	今日が何月何日かがわかる	は い・いいえ
10	自分の誕生日をカレンダーから探すことができる	は い・いいえ

<長さ・重さ・広さ・かさについて>

1	二つのものを比べてどちらが長いかがわかる	は い・いいえ
2	自分の身長が何センチかがわかる	は い・いいえ
3	1 cm、10 cm、1 mのおよその長さの感覚がある	は い・いいえ
4	二つのものを比べてどちらが重いかがわかる	は い・いいえ
5	自分の体重を体重計を使ってはかることができる	は い・いいえ
6	自分の家の中で一番広い部屋、狭い部屋を答えることができる	は い・いいえ
7	二つのコップに入っているジュースの量の多い少ないがわかる	は い・いいえ
8	ジュースをコップに半分注ぐことができる	は い・いいえ
9	計量カップを家で使わせたことがある	は い・いいえ

<図形・表やグラフについて>

1	丸いものと四角いものを区別できる	は い・いいえ
2	棚の上、棚の下の区別がわかる	は い・いいえ
3	左側、右側の区別がわかる	は い・いいえ
4	上から二番目の引き出しと言ったときにその場所がわかる	は い・いいえ
5	ハンカチをたたむことができる	は い・いいえ
6	時間割を見て、明日の準備ができる	は い・いいえ
7	バスや電車等の時刻表を読むことができる	は い・いいえ

その他、算数、数学科の学習に関することでご要望がある場合は下にお書きください。

--